報第３０号

令和３（２０２１）年度
柏崎市教育委員会
点検・評価報告書

令和４年（２０２２年）９月１２日提出
柏崎市教育委員会
教育長　近藤　喜祐

目　　次

はじめに　P 1

総評（教育委員会事務評価委員会）　P 2 ～ 5

第1　教育委員会の会議及び委員の主な活動　P 6 ・ 7

第2　教育委員会の事務の管理及び執行状況　P 8

1　子どもや若者の「たくましさ」をはぐくむ　P 8

⑴　知徳体のバランスの取れた教育を進める　P 9 ～ 12
ア　確かな学力をはぐくむ教育の推進
イ　豊かな心をはぐくむ教育の推進
ウ　健やかな体をはぐくむ教育の推進

⑵　地域ぐるみで子どもや若者を育てる　P 13 ～ 15
ア　地域に誇りと愛着の持てる教育の推進
イ　青少年育成活動の推進と家庭教育の支援
ウ　子どもの健全育成支援の推進

⑶　教育環境を充実させる　P 16 ～ 18
ア　良好な教育環境の整備
イ　教育現場の情報化の推進

2　学びを通じて地域の「たくましさ」をはぐくむ　P 19

⑴　学びの機会を充実させる　P 20 ～ 23
ア　多様な学習・交流機会の提供
イ　社会教育環境の充実

⑵　家庭・地域の教育力を高め、共助社会を形成する　P 23
ア　地域づくりへの学習成果の活用
イ　様々な主体との連携による生涯学習の充実

3　スポーツを通じた「たくましさ」をはぐくむ　P 24

⑴　スポーツによる地域づくりや生きがいづくりを進める　P 24 ・ 25
ア　ライフステージに応じたスポーツの推進
イ　スポーツによる交流人口の拡大

⑵　全国や世界に通用する競技者を育てる　P 26 ・ 27
ア　競技団体との連携の強化と指導者の養成
イ　競技力の向上に向けた取組の推進
ウ　施設の整備と改修

4　歴史や文化の息づく「柏崎らしさ」をつくる　P 28

⑴　歴史・文化を保全・活用し、継承する　P 29
ア　伝統芸能の継承
イ　歴史・文化資産の保存と活用
ウ　産業文化や生活文化の保存と活用
エ　景観まちづくりの推進

⑵　市民の主体的な文化活動を支援する　P 30
ア　市民の文化活動への支援
イ　多様な文化交流の推進

5　その他教育関係事務事業　P 31

令和３（2021）年度　掲載がない事業　P 31 ・ 32

用語解説　P 32

参考　P 33

はじめに

１　点検及び評価の背景

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定に基づき、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することとなっています。また、その点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされています。

柏崎市教育委員会は、法の趣旨にのっとり、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たしていくために、教育委員会事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を実施しました。

２　点検及び評価の対象

評価対象の事務事業は、第五次総合計画（前期基本計画）の施策体系を基本に、柏崎市教育大綱を踏まえ、令和３（２０２１）年度に執行した事務事業のうち７５事業を対象として点検及び評価を行いました。また、新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で事業の実施や施設運営を行いましたが、やむを得ず事業が中止になり、評価をすることができないものについては評価不能としました。

＜内部評価ランク＞

［Ｓ］　期待を超える成果があった。

［Ａ］　期待どおりの成果があった。

［Ｂ］　期待に比べ成果が少なかった。

［－］　新型コロナウイルス感染症によりやむを得ず事業が中止になり、評価することができなかった。

３　学識経験者の知見の活用

点検及び評価に当たっては、その客観性を確保するため、教育委員会が行った内部評価に対して、教育に関し学識経験を有する者で組織する教育委員会事務評価委員会に諮問し、御意見をいただきました。

総　評

令和３（２０２１）年度に柏崎市教育委員会が執行した事務の状況及び内部評価について点検及び評価を行った。評価のポイントは、柏崎市第五次総合計画前期基本計画と柏崎市教育大綱を踏まえて、適切に事業が行われているかを主眼とした。評価に当たっては、教育委員会担当課から内部評価の聞き取りを計２回に分けて行った。

事務評価委員会として、以下のとおり総評する。

総合計画の基本方針に基づき、知徳体のバランスの取れた教育や教育環境の充実により、子どもたちの健全育成を図るとともに、子どもから大人まで全ての市民が学びやスポーツに親しむことにより、たくましいまちをつくるとしている。

事務評価委員会では、教育委員会の７５の事務事業について点検及び評価を行ったところ、実施された事業は、おおむね期待した成果があるものと認めた。

事業別の評価結果は、次のとおりであった。

Ｓランク	・・・・	５	事業
Ａランク	・・・・	６８	事業
Ｂランク	・・・・	０	事業
－（評価不能）		２	事業

本市の教育の充実を図るため、令和３（２０２１）年度は、特別支援教育推進事業や文化振興支援事業を積極的に推し進めるとともに、教育各分野において、事務事業が予算に基づいて確実に執行された。また、感染症対策を適切に講じながら、各種イベントや講座、企画展等を実施することで、令和２（２０２０）年度に比べて開催回数や参加者数が増加した事業が多くあった。

今後の教育委員会の事業実施に当たっては、コロナ禍以前の活動規模に徐々に戻りつつある中で、各種事業の実施方法を再度検討するとともに、少子高齢化やＩＣＴの進化による教育への影響、課題を把握し、教育環境の充実に努める必要がある。その上で、事業を適正かつ効果的に実施することが求められる。

項目別の評価は、次のとおりである。

＜事務評価委員会における項目別の主な評価等＞

第１　教育委員会の会議及び委員の主な活動について　（Ｐ６・７）

教育の現状や課題の把握に努め、適切に活動していると認められる。

・現在の子どもたちの学習状況や令和４（２０２２）年度から行われる学力向上プロジェクトについて、総合教育会議で市長と意見交換を行ったり、学校訪問で学習活動の参観や教職員との懇談を行うことで、子どもたちの学力向上に向けた課題の把握に努めている。

第２　教育委員会の事務の管理及び執行状況

１　子どもや若者の「たくましさ」をはぐくむ

（１）知徳体のバランスの取れた教育を進める　（Ｐ９－１２）

期待した成果があるものと認められる。

・全国学力・学習状況調査及び総合学力調査の出題傾向が変わったことで、柏崎市の子どもたちは思考力、表現力、判断力の分野が苦手であることが分かったが、ある程度高い成果を出すことができている自治体もある。その要因を分析し、今後の授業改善、子どもたちへの働きかけを期待する。

・現在も外部指導者が部活動を指導することがあるが、指導者を探すことが困難になってきている。今後、部活動の地域移行が進む中でも課題となることから、指導者の人材確保について検討していただきたい。

・綾子舞をテーマにした演劇鑑賞会のように、小・中学生が柏崎の伝統文化を身近に体験するのは良い機会である。今後もこのような取組を継続し、柏崎市の未来を担う子どもたちが伝統文化の良さを実感する機会を提供していただきたい。

（２）地域ぐるみで子どもや若者を育てる　（Ｐ１３－１５）

期待した成果があるものと認められる。

・特別な支援を要する子どもの割合が増えてきており、特別支援教育担当教員の人材確保、人材育成が課題となっている。今後、教育委員会と学校で連携し、特別支援教育の必要性や重要性を若手教員へ周知するとともに、研修等で知識を習得する機会を充実させる必要がある。

・スクールサポート巡回相談により専門員が学校に不在になることが多く、学校の負担が大きい。教育委員会として、できる限り学校の負担を軽減できるように取り組む必要がある。

・就学援助費や就学奨励費により適切な経済支援を行うことで、子どもたちの就学環境を保障することが必要である。

（３）教育環境を充実させる　（Ｐ１６－１８）

期待した成果があるものと認められる。

・学校用務員も学校教職員の一員として学校運営の重要な役割を担っている。委託事業者が変更になる場合は、円滑な学校運営ができるように、適切な人員配置及び交代の準備を進めていただきたい。

・学校施設の老朽化が進んでいるため、経過年数や劣化状況、過去の改修工事の実施状況等を踏まえた上で計画的に改築を進め、良好かつ快適な教育環境の整備を望む。

・校舎戸締り等業務委託は、教員の業務負担の軽減につながる取組である。早朝出勤や業務の持ち帰りによる個人情報漏えいに注意しながら、引き続き、教員の指導業務以外の業務負担の軽減を検討していただきたい。

２　学びを通じて地域の「たくましさ」をはぐくむ

（１）学びの機会を充実させる　（Ｐ２０－２３）

期待した成果があるものと認められる。

・コロナ禍において、十分な感染症対策を行った上で成人式を実施した市町村もあった。今後の実施に当たっても、県内他市町村の実施状況や実施条件等を踏まえながら検討を進める必要がある。

・図書館の企画展で「柏崎の花 –Spring Collection」を開催し、好評であった。今後も様々な分野のイベントや企画展の開催を期待する。

・閉館したふるさと人物館の資料を活用したり、展示品をリニューアルしながら魅力的な博物館を目指してほしい。また、観光パンフレットや SNS を活用するなど、市外の人を呼び込む工夫を検討していただきたい。

（２）家庭・地域の教育力を高め、共助社会を形成する　（Ｐ２３）

期待した成果があるものと認められる。

・市民大学運営事業は、幅広い分野の知識を習得し、学習者の豊かな人生の創造につながっている。引き続き、市民の関心の高いテーマや受講者の募集について検討する必要がある。

３　スポーツを通じた「たくましさ」をはぐくむ

（１）スポーツによる地域づくりや生きがいづくりを進める　（Ｐ２４・２５）

期待した成果があるものと認められる。

・中学校の生徒数が少ないことで、希望する部活動に取り組むことができない生徒がいるが、学校の枠を超えたスポーツのクラブ化などによる問題の解消を望む。また、中学生だけでなく、幅広い世代がスポーツ活動を行える環境づくりに取り組む必要がある。

・部活動の地域移行が進むことで、今後、今までの学校部活動やクラブチームといった枠組みがなくなることが予想される。スポーツで活躍する柏崎市の児童生徒に対して平等な支援が行われることを期待する。

・人口減少や高齢化によりスポーツ人口の減少が進んでいる。市民のニーズに合わせた大会の企画やスポーツ施設の整備を行う必要がある。

（２）全国や世界に通用する競技者を育てる（Ｐ２６・２７）

期待した成果があるものと認められる。

・全国的にスケートボードやボルダリングといった新たな競技スポーツの競技人口が増えてきている。柏崎市でも競技人口を把握した上で、必要に応じて施設の整備や指導者の確保を行う必要がある。

・市内のスポーツ選手が優秀な成績を収めた際には、市民プラザや白竜テニスコート等の人目に付く場所に結果を掲載しているが、今後、更に選手のモチベーションにつながるようなアピールの方法を検討していただきたい。

４　歴史や文化の息づく「柏崎らしさ」をつくる

（１）歴史・文化を保全・活用し、継承する　（Ｐ２９）

期待した成果があるものと認められる。

・軽井川南遺跡群の小冊子を１冊刊行したが、現在のフロンティアパークの地図と遺跡群の分布図が対比できれば、更に市民の理解が深まる。

・南中学校と新道小学校の綾子舞伝承学習は、担当の学校職員も含めて熱心に行っている。今後も、参加者、指導者及び担当する学校職員を確保しながら、後継者育成を継続していただきたい。

（２）市民の主体的な文化活動を支援する　（Ｐ３０）

期待した成果があるものと認められる。

・文化会館アルフォーレや産業文化会館の利用者が減少傾向にある。新型コロナウイルス感染症の感染状況を見ながら柔軟な管理運営を行うとともに、イベント規模等に応じて施設を使い分け、市民が利用する文化施設として適切な管理運営を期待する。

５　その他教育関係事務事業　（Ｐ３１）

期待した成果があるものと認められる。

・インターネットにおける人権侵害や新型コロナウイルスに関する不当な差別、偏見など、社会の変化によって新たに発生する問題に対する研修会に参加するとともに、市民向けの講座や啓発活動を行うことで人権に対する知識を深めることが大切である。

令和４（２０２２）年７月２１日

柏崎市教育委員会事務評価委員会

委員長　吉田存祐

副委員長　笠原寿雄

委　員　小嶋美江子

委　員　野澤真由美

第１　教育委員会の会議及び委員の主な活動

１　教育委員会会議の開催状況

開催月	審議事項等						報告事項	
	条例、規則等の制定・改廃		人事案件		その他の案件			
４月定例会		―	５件	柏崎市奨学金貸付選考委員会委員の委嘱ほか		―	１１件	令和３年度（２０２１年度）柏崎市奨学生の選考結果ほか
５月定例会		―	３件	かしわざきこども大学運営協議会委員の委嘱ほか	１件	令和３年度（２０２１年度）一般会計補正予算（第６号）ほか	１１件	民間施設を活用した水泳授業運営支援業務委託ほか
６月定例会		―		―	１件	令和２年度（２０２０年度）柏崎市教育委員会点検・評価報告書ほか	９件	市議会６月定例会議の一般質問ほか
７月随時会		―	１件	非常勤職員の分限処分ほか		―		―
７月定例会		―	１件	柏崎市立教育センター運営委員会委員の委嘱ほか	１件	白竜公園テニスコート管理棟及び倉庫棟の改築ほか	１１件	文化振興支援事業「野外おんがく堂＠劇場広場」の開催ほか
８月定例会	１件	新潟県柏崎市文化会館アルフォーレ設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定ほか		―	２件	令和３年度（２０２１年度）一般会計補正予算（第１３号）ほか	８件	第５６回柏崎刈羽地区児童生徒科学作品展の開催ほか
９月定例会		―		―		―	１３件	市議会９月定例会議の一般質問ほか
10月定例会		―		―		―	１２件	「科学のえんま市２０２１」の開催ほか
11月定例会		―	１件	かしわざきこども大学運営協議会委員の委嘱ほか	６件	令和３年度（２０２１年度）一般会計補正予算（第１８号）ほか	１５件	第２３回全市一斉地場産給食デーの開催ほか
12月定例会		―		―	２件	教育財産の用途廃止ほか	１３件	市議会１２月定例会議の一般質問ほか
１月定例会		―		―	３件	令和３年度（２０２１年度）一般会計補正予算（第２２号）ほか	５件	令和４年（２０２２年）第９１回元朝体操会の開催報告ほか
２月定例会	２件	学校給食費の徴収に関する条例の制定ほか		―	２件	令和３年度（２０２１年度）一般会計補正予算（第２４号）ほか	６件	第５２回新潟県ジュニア美術展覧会柏崎展の開催報告ほか
３月定例会	１６件	柏崎市埋蔵文化財業務専門員任用要綱の一部改正ほか	４件	令和４年度（２０２２年度）教育委員会事務局等の人事異動内示ほか	４件	令和３年度（２０２１年度）一般会計補正予算（第２６号）ほか	１４件	市議会２月定例会議の代表質問・一般質問ほか
計	１９件		１５件		２２件		１２８件	

２　学校訪問

(1) 令和３（２０２１）年６月２３日（水）　比角小学校、第二中学校、槇原小学校

(2) 令和３（２０２１）年７月８日（木）　東中学校、日吉小学校、中通小学校

(3) 令和３（２０２１）年１１月１２日（金）　高柳小学校、北鯖石小学校、田尻小学校、瑞穂中学校

・学校訪問の趣旨

(1) 学校訪問を通して、学校の現状や課題、小中一貫教育の取組等を把握し、教育行政に役立てる。

(2) 学習活動の参観や教職員との懇談等を通して、教育実践の高揚を図る。

・学校訪問の概要

授業や集会など児童生徒の教育活動の参観、校長による学校運営説明、教職員との懇談、教育委員指導など

３　総合教育会議（市長と教育委員会が、市の教育や子育て施策について幅広く話し合う会議）

令和４（２０２２）年２月２日（水）　市役所

議題

(1) 小・中学校における学力向上プロジェクトについて

(2) 学校における諸課題について

４　出席事業

４月：教育委員会招集校長会

５月：市功労者表彰審査会

７月：教科用図書採択協議会

８月：柏崎港開港５０周年記念小学生体験航海

１０月：柏崎市美術展覧会（市展）表彰式

２月：教育委員会表彰式

第2　教育委員会の事務の管理及び執行状況

※32ページに用語解説があります。

1　子どもや若者の「たくましさ」をはぐくむ

【第五次総合計画・前期基本計画における施策の方針】
① 未来の担い手となる子ども達の「生きる力」を育むため、「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」を育む知徳体のバランスの取れた教育を進める。
② 学校・家庭・地域の連携・協働を推進する体制を整え、子どもたちがふるさと柏崎に誇りと愛着を感じ、健やかな成長が図られるよう取り組む。
③ 安全・安心で快適な学校施設の整備・改修を計画的に進めるとともに、適正規模の教育環境の整備について検討する。
④ 情報化社会に児童生徒が適切かつ主体的に対応できるよう、ICT環境の整備と充実に取り組む。

◆ 主な事業

教育総務課

○ 校舎戸締り等委託業務
教職員の働き方改革及び多忙化解消の一環として、小学校7校、中学校3校をモデル校に選定し、教職員の負担となっていた日直業務を民間に委託するとともに、日直業務員が退校を促すことにより長時間勤務の改善を図った。

○ 学校施設長寿命化事業
槇原小学校で大規模改修工事のⅠ期工事と、老朽化したプレハブ校舎を解体して木造2階建て校舎の増築工事を実施し、老朽化した施設の利便性及び快適性が向上し、良好な教育環境の整備ができた。

○ 給食施設整備事業
西部地区学校給食共同調理場及び東部地区学校給食共同調理場について、学校給食衛生管理基準（文部科学省）及び大量調理マニュアル（厚生労働省）に沿ってブラストチラー（食品急速冷凍・冷却器）の整備を行なったことにより、加熱後の食品冷却が容易となり適正な食品の温度管理や調理作業時間の短縮ができ、より安心で安全な給食提供となる。
また、南部地区学校給食共同調理場の配送車入替えについては、海外での新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、工場が操業休止となる等の影響を受け当初の入札が不調となったが、契約期間を延長し再入札により令和4（2022）年度に納車となる契約を締結することができ、安定した学校給食事業を行う上で有効であった。

学校教育課

○ 指導補助事業
小・中学校26校に、前年度より2名多い43名の指導補助員を配置し、学習指導や生徒指導等の充実に向けた支援を行った。個々の特性に応じた支援を必要とする児童生徒に対して、授業のねらいの達成に結び付くきめ細やかな支援が行われ、児童生徒一人一人の能力を伸ばす教育が推進された。
また、対人関係の構築が苦手な児童生徒への個別の指導・支援を充実させることができた。

○ 特別支援学級介助事業
小学校14校に、前年度より2名多い35名の特別支援学級介助員を配置し、特別支援学級に在籍する児童が安心できる環境で充実した学校生活を送れるよう支援をすることができた。今後も、特別支援学級在籍児童数の増減や学級児童生徒の実態を考慮しながら介助員を配置していくことや、個々の特性に応じた支援方法を学ぶ機会を作り、適切に介助できる学校体制につなげることが重要である。

○ 特別支援教育推進事業
特別支援教育会議において、専門員による丁寧な調査活動により、保護者の理解を得られ、おおむね適正な就学につながる判断を出すことができた。また、特別支援教育相談員を配置し、就学相談に関わる検査の実施や保護者や教職員への説明、スクールサポート巡回相談での助言を行うことにより、適正就学につながる相談の充実や子どもへの適切な支援につながった。

文化・生涯学習課

○ 地域学校協働活動推進事業

全小・中学校に地域コーディネーター（37名）を配置した。講義の受講とグループ討議により学校と地域の課題を整理して、学校と地域住民が共に地域の課題を解決する活動や地域の行事に学校が参画して、共に地域づくりに関わる活動に取り組むことで、学校、家庭、地域が一体となって地域ぐるみでの子どもの育成につなげることができた。

地域コーディネーター・学校担当職員を対象とした「地域総ぐるみで子供の成長を支える確かな仕組みづくり」についての講義・演習を実施し、地域コーディネーター12人・協働活動支援員10人、学校担当者24人の計46人が受講し、人材の育成につなげることができた。

○ ジュニアリーダー養成事業

柏崎市内の小・中学生を対象に、子ども会などでリーダーとして活躍できる知識や技能を身に付けることを目的として7回の研修を実施した。年齢や学区の異なる29人の児童・生徒が参加し、互いに協力して活動することを通して、社会性や協調性を育むことができた。また、子どもが自ら考え、主体的に活動することを念頭に研修を進め、リーダーとしての資質を養うことにつながった。

図書館

○ 移動図書館事業

図書館利用が困難な市民が多様な図書に出会う機会を提供し、市民の読書活動の充実を支援することができた。移動図書館は利用者が3,330名、貸出冊数が8,766点であった。貸出文庫は利用団体数が69団体、貸出冊数が17,580点であった。

○ 図書館サービス事業

学校読書支援員5名が20小学校を巡回し、学校図書館の読書環境整備や児童への読書支援を行うことができた。市内20小学校の満足度調査では、全体を通して「大変良い」の回答が90.2％となり、前年度より2.8％向上した。

また、柏崎高校の授業の一環である「柏崎サイエンスプロジェクト（ＫＳＰ）」活動への支援として、20班21件のべ78人の生徒にレファレンスを行った。（前年度18班57人）

⑴ 知徳体のバランスの取れた教育を進める

ア 確かな学力をはぐくむ教育の推進
イ 豊かな心をはぐくむ教育の推進
ウ 健やかな体をはぐくむ教育の推進≪健康・元気・いきいき戦略≫

	事務事業名	予算現額（千円）	決算額（千円）	事業概要・実績	○＝成果　●＝課題・今後の取組	評価ランク
1	**指導補助事業** **［学校教育課］**	117,552	111,828	小・中学校26校に、前年度より2名多い43名の指導補助員を配置し、学習指導や生徒指導等の充実に向けた支援を行った。 小・中学校2校に、2名の日本語指導員を配置し、外国にルーツをもつ児童生徒の日本語力向上に向けた支援を行った（半田小・槇原小）。 中学校7校に8名の部活動指導員を配置し、部活動の充実に向けた支援を行った（第一中・第三中・鏡が沖中・松浜中・南中・東中・西山中）。	○ 指導補助員の配置により、授業のねらいの達成に結び付くきめ細やかな指導・支援が行われ、児童生徒一人一人の能力を伸ばす教育が推進された。 日本語指導員の配置により、外国人等の日本語指導や就学支援で成果が見られた。 部活動指導員の配置により、教員の負担軽減につながった。 ● 全国学力・学習状況調査及び総合学力調査の結果は、十分な成果を上げられていない状況である。今後の指導補助員の活用法を検討する必要がある。 個に応じた指導や特別な教育的ニーズに応じた支援のために、指導補助員を必要とする場面が増えている。 日本語指導員は、今後も必要に応じた配置を行う。 部活動指導員は、今後も継続的に関わってくれる人員の確保に努める。	A

	事務事業名	予算現額（千円）	決算額（千円）	事業概要・実績	○＝成果　●＝課題・今後の取組	評価ランク
2	小・中学校音楽関連事業 ［学校教育課］	831	827	豊かな感性とふるさと柏崎に対する誇りや愛着を育むことを目的に、国定重要無形民俗文化財「綾子舞」を、市内小学5年生・中学1年生が鑑賞する場を設定した。10月21日（木）アルフォーレで、柏崎市綾子舞保存振興会の御協力をいただき、午前・午後の2部構成で開催した。	○ 市内児童635名、生徒663名が鑑賞した。事後アンケートでは、演舞の美しさや、地域の伝統芸能に関心をもったなどの肯定的な感想が90％であった。 ● 舞台開演時間やバス送迎時刻など、各校の教育活動に配慮する必要がある。	A
3	英語教育推進事業 ［学校教育課］	33,192	27,273	小・中学校における英語教育と国際理解教育の充実を図るため、常勤5名、非常勤1名のＡＬＴ（外国語指導助手）を配置・活用した。小学校の外国語活動や中学校の英語授業で教諭とのチームティーチングなどを実施した。	○ ＡＬＴの活用により、英語によるコミュニケーション活動が活発かつ効果的に行われた。コロナ禍の影響で来日予定の新規ＡＬＴ3名うち1名がまだ入国できていない状況だったが、訪問校配置を工夫し、事業は予定通り実施できた。 ● 新しいＡＬＴの授業力向上を目指し、月１回のＡＬＴ会議等における授業研修を推進する。	A
4	一般教材整備費 ［学校教育課］	15,624	15,367	小学校に、国語・算数（全学年）、社会・地図（5・6年）、理科（3～6学年）のデジタル教科書を整備した。 中学校に、国語・社会・数学・理科・英語（全学年）のデジタル教科書を整備した。 ＧＩＧＡスクール構想の導入に伴い、インターネットを通じて遠隔授業や課題提示等を行うために、著作権法が規定する授業目的公共送信の補償金を支払った。	○ デジタル教科書の整備を進め、小・中学校において電子黒板や学習用タブレットとともに一層の利活用を図った。課題提示や問題解決の場面で、デジタル教科書を効果的に活用することにより児童生徒の理解を深めることができた。感染症禍において、遠隔授業の実施が可能となり、児童生徒一人一人の学びを保障することができた。 ● 研修内容を充実させ、有効活用するための教員への指導を進めてきたが、まだデジタル教科書活用に学校差や個人差がある。校長会等を通じて一層の活用促進を呼びかけ、児童生徒の学びの深まりと学力の向上につなげたい。	A
5	科学技術教育事業 ［教育センター］	8,254	7,514	①教職員への理科・生活科・総合・環境の専門研修・相談支援等のため、研修会を実施した（27回、受講者数221名）。 ②科学に対して親しみ、興味の醸成を図るため、「科学のえんま市2021」等の啓発事業を10回実施した（参加者数1,014名）。 ③学校等の要請研修（61回）・教材機器等の貸出し（125件）・理科教育の相談支援（414件）等を通じ学校・地域（子供会等）への支援を行った。	○ 令和2（2020）年度に比べ、研修参加者数は増加した。遠隔型研修が積極的に行われ、配信されているデジタル教材の活用も進んでいる。参加者からは「児童生徒への指導にいかしたい」98.6％と、満足度において高い評価を得た。 ● 学習用タブレットの効果的活用等、現在の課題に対応したタイムリーな研修を実施していく必要がある。授業力向上研修、教材教具研修なども遠隔型授業に対応できる研修内容を検討していく。	A
6	教職員研修事業 ［教育センター］	4,565	4,150	教職員の資質・能力向上のため、対面研修と遠隔型研修を組み合わせながら講座を実施した。 講座回数108回（前年度：110回） 受講者数2,229名（前年度：1,759名）	○ 遠隔型研修を積極的に進め、教職員にも定着しつつある。遠隔型による新指導要領対応研修やＧＩＧＡスクール端末研修等について、多くの参加者から肯定的な評価を得た。 ● 学力向上に関する研修をさらに充実し、児童生徒の学力向上につながる授業改善のための研修を実施する。また、ＧＩＧＡスクール端末関連研修や端末を活用した授業づくり研修、学校現場のニーズに応える魅力ある研修を企画・運営する必要がある。	A

	事務事業名	予算現額（千円）	決算額（千円）	事業概要・実績	○＝成果　●＝課題・今後の取組	評価ランク
7	学校教育活動推進事業 ［学校教育課］	16,931	15,925	特色ある教育活動の充実を図るため、全小・中学校に奨励金を交付し、各学校の工夫ある実践が行われた。 令和3（2021）年度より「食育推進活動事業」を本事業と統合したため、各学校5,000円増、各クラス500円増となった。 ＜奨励金＞（例）柏崎小：306,500円 第一中：203,000円 ＜内訳＞校外学習等の輸送費、各種行事（地域との交流）に係る経費等	○ コロナ禍で制限の多い1年であったが、各学校が体験活動、キャリア教育、小・中学校と地域が連携した取組などを工夫して実践し、特色ある教育活動を推進することができた。 ● 各学校が目指す子ども像を明確にし、今まで以上に工夫した取組を実践する。また、今後もコロナ禍による活動制限が予想されるが、感染予防策を講じたり、活動方法を工夫したりしながら、事業を推進する。	A
8	学校医報酬等 ［学校教育課］	18,671	17,919	学校医、学校歯科医により全小・中学校全学年及び新年度小学校入学生に内科及び歯科、小学校1、3、5年及び中学校1、3年に眼科及び耳鼻科検診を実施した。 学校薬剤師により、環境衛生検査を実施した（全小・中学校、年間1回）。	○ 市立小・中学校の児童生徒に対して健康診断を実施し、引き続き健康な学校生活を送るための基盤づくりに寄与した。 ● 学校医の確保、医師会・歯科医師会からの要望への対応や、学校現場との連携が重要となる。	A
9	検診費 ［学校教育課］	9,333	8,148	全小・中学生の定期健康診断（内科・歯科・耳鼻科・眼科・検尿・心電図）と精密検査（小児生活習慣病検診、せき柱側わん症検診、運動器検診精密検査）を実施。教職員の健康診断（一般、歯科）を実施した。 ＊児童生徒及び教職員の健診に関わる手数料（尿検査：159万円、心電図：177万円、教職員健診：339万円等）	○ 新型コロナウイルス感染症対策を講じて、市立小・中学校の児童生徒に対して健康診断を実施し、引き続き健康な学校生活を送るための基盤づくりに寄与した。 ● 児童生徒の健康上の特性に合わせた健診内容等について、検討していく必要がある。	A
10	むし歯予防対策費 ［学校教育課］	4,488	3,710	学齢期歯科保健事業（歯科健康教室、就学時保護者歯科健康教育、継続的歯科保健事業）の歯科衛生士派遣及び歯科保健教材を活用したむし歯予防、歯肉炎予防などの歯科保健活動を実施した。 フッ化物洗口事業を全小・中学校で保護者の同意を得て実施し、実施率は97.6％である。	○ 平成29（2017）年度から市内全小・中学校にフッ化物洗口事業を開始し、継続実施している。計画通り遂行し、口腔（くう）衛生の維持向上に寄与した。 ● 一人平均むし歯数、有病者率ともに改善傾向にある。同一年齢児で比較するため、平成29（2017）年度と令和5（2023）年度の中学校1年生の歯科健康診断結果で比較し事業の効果を分析する必要がある。	A
11	学校保健推進費 ［学校教育課］	6,602	5,517	学校での健康診断や健康教育に必要な消耗品を購入した。検診器具管理の業務委託により、適切な消毒と配送業務が行われた（小・中学校に配置していた消毒作業員の経費がなくなったため、約1,500万円減額）。 外部講師（助産師等）を中学校11校に13回派遣し、思春期保健に関する専門的な指導を行った。	○ 健康診断や健康教育に必要な器具・教材等を整備し、保健指導等にいかすことができた。健康教育では外部講師への期待も大きく、外部講師による現状を踏まえた専門的指導は、児童生徒及び教職員の健康意識の向上に有効であった。 ● 使用頻度の高い保健教材は、補充や交換が必要である。また、現場のニーズに合った教材や制度を整備していく必要がある。	A

	事務事業名	予算現額（千円）	決算額（千円）	事業概要・実績	○＝成果　●＝課題・今後の取組	評価ランク
12	**移動図書館事業** **［図書館］**	2,816	1,895	移動図書館 市内19小学校（柏崎小学校を除く。）に月1回程度巡回し、児童の読書推進を図った。166回（前年度106回） ・貸出利用…3,330人、8,766点（前年度2,432人、5,991点） 貸出文庫 コミセンや介護福祉施設、幼稚園・保育園等69（前年度81）の希望団体に40～50冊程度の図書を貸し出し、施設利用者の読書推進を図った。 ・利用数…17,580点（前年度19,059点）	○ 各小学校や施設においても多くの図書から主体的に本を選ぶことができたため、読書への興味や読書の幅を広げる機会となり、市民の読書活動の支援を行うことができた。 ● 市民が充実した読書機会を得られるよう、引き続き事業を継続していく必要がある。	A
13	**図書館サービス事業** **［図書館］**	56,652	54,953	資料の整理・貸出・登録・修理など利用者の環境整備とソフィアだよりの発行やホームページなどにより広報を行った。また、資料の特設展示を32回行った。 ・貸出者数 …99,083人（前年度92,384人） ・貸出冊数 …314,011点（前年度288,833点） ・入館者数 …233,152人（前年度223,655人） 利用者のレファレンス照会に対応した。 ・対応実績 …1,184件（前年度1,180件） 柏崎高校おすすめ図書の紹介と「柏崎サイエンスプロジェクト（ＫＳＰ）」の活動支援を実施した。 ・利用実績 …20班78人（前年度18班57人） 重い本の持ち運びに便利なブックカート3台を寄贈により設置した。 学校読書支援員5人が市内全20小学校を巡回し、図書の廃棄、書架整理、資料整備、読書指導など、学校図書館の読書環境整備と児童に対する読書支援を行い、学校図書館の読書環境整備と読書支援を行った。また、学校に対し支援活動の満足度調査を実施し、学校との連携を図った。	○ 感染症拡大による臨時休館や、空調工事による利用制限もあったが、前年度より入館者数や貸出数が増加した。 レファレンス対応や特別展示により、引き続き市民の生涯学習の支援を行うことができた。 柏崎高校の「柏崎サイエンスプロジェクト（ＫＳＰ）」活動への支援の申込みが増加した。 学校読書支援員の巡回支援により、児童の読書への興味や学習意欲の向上に寄与することができた。市内20小学校担当者への満足度調査では、全体を通して「大変良い」90.6％（前年比+2.8％）の評価を得た。 ● 引き続き、読書環境の充実や読書バリアフリーの推進、また、積極的な情報発信をすることで、幅広い市民からの図書館施設の利用促進を図る必要がある。 学校読書支援員への支援体制等の継続と、市内中学校図書室の状況を把握し、学校読書支援員による環境整備の必要性について検討する必要がある。	A

⑵　地域ぐるみで子どもや若者を育てる

ア　地域に誇りと愛着の持てる教育の推進　≪地域の宝・育成戦略≫
イ　青少年育成活動の推進と家庭教育の支援
ウ　子どもの健全育成支援の推進

	事務事業名	予算現額（千円）	決算額（千円）	事業概要・実績	○＝成果　●＝課題・今後の取組	評価ランク
14	キャリア教育推進事業 ［学校教育課］	3,751	3,424	キャリア教育講演会やキャリア教育授業モデル校事業を実施した。講演会は、コロナ禍で例年どおりの実施が困難な状況であっが、44内容、82名の講師が職業や生き方について講演を行った。 （例） 半田小学校：「パティシエの仕事について」（矢代愛氏） 剣野小学校：「日本の伝統文化体験」（木村茶道美術館） 松浜中学校：「手話教室・点字教室」（松田征夫氏、中村和巳氏）	○ 資料提供により、これまでお仕事体験塾に参加したことがない児童生徒にも柏崎の良さや職業について考えるきっかけの一つとなった。 モデル校事業では、外部講師との連携により取組を充実させた。 講演会は、年度始めに計画を提出して取り組んだため、昨年度を上回る活用があった。 ● モデル校での学びを他の中学校に共有するための情報交換の機会や教職員研修等、工夫が必要である。 キャリア教育講演会は、年度始めに立てた計画に基づき確実に実施・予算執行をする必要がある。	A
15	就学援助費 ［学校教育課］	90,550	75,556	経済的理由で就学困難な児童423名、生徒295名の保護者に、小・中学校における必要経費（学用品費、学校給食費等）の一部を援助した。また、令和4（2022）年度に入学予定の経済的理由で就学困難な児童41名及び生徒81名の保護者に、新入学学用品費等を入学前に援助した。	○ 就学困難な児童・生徒の保護者に援助費を支給し、就学環境の向上に寄与した。 ● 小・中学校の在籍児童・生徒数は年々減少しているが、在籍児童・生徒数に占める認定者の人数はほぼ変わりなく、今後も継続して事業を行う必要がある。また、学校と連携しながら、保護者への制度周知を徹底していく必要がある。	A
16	就学奨励費 ［学校教育課］	11,943	8,526	特別支援学級に在籍する児童135名・生徒59名、他校の通級指導教室に通う児童52名・生徒5名の保護者に、小・中学校における必要経費（学用品費、学校給食費、交通費等）の一部を援助した。	○ 特別支援学級等に在籍する児童・生徒の保護者に援助費を支給し、就学環境の向上に寄与した。 ● 小・中学校の在籍児童数は年々減少しているが、特別支援学級在籍者数は前年度からほぼ横ばいで推移している。今後も特別支援学級等に在籍する児童・生徒を持つ保護者の経済的負担を軽減し、就学環境を保障する必要がある。	A
17	通級指導教室事業 ［学校教育課］	773	700	田尻小学校に発達障害通級指導教室が新設された。指導に必要な教材や教材研究のための書籍購入等の支援、通級指導教室の環境整備を行った。 通級指導担当者主催の研修会は、年4回実施した。（参加者数延べ105人） ＜通級指導教室在籍児童生徒＞ 小学校：183人（前年度：164人） 中学校：45人（前年度：39人）	○ 担当者の指導力向上、教室環境の整備につながり、多様な教育的ニーズのある児童生徒が専門的な指導・支援を受けることができ、在籍校での適応力が向上した。 ● 通級指導教室を利用する児童生徒の増加や教育的ニーズの多様化が顕著に見られる。通級指導教室の新設も含め、教室環境の整備や指導のために必要な情報端末等の更新、指導者の育成等が必要である。	S
18	特別支援学級介助事業 ［学校教育課］	89,853	86,937	小学校14校に、前年度より2名多い35名の特別支援学級介助員を配置し、特別支援学級に在籍する児童が安心できる環境で充実した学校生活を送れるよう支援した。指導力向上のため研修を充実させた。 ＜特別支援学級在籍児童生徒＞ 小学校：254人（前年度：267人） 中学校：105人（前年度：91人） ＜特別支援学級学級数＞ 小学校：55学級（前年度：58学級） 中学校：23学級（前年度：23学級）	○ 特別支援学級に在籍する児童の個性・特性に応じて適切に介助員を配置したことにより、安定した学校生活を送ることができた。年3回の悉皆（しっかい）研修により、児童の特性や具体的支援方策の理解を深め、実践につなげることができた。 ● 介助員の配置については、特別支援学級在籍児童数の増減と個々の特性を考慮しながら検討していく必要がある。	S

	事務事業名	予算現額（千円）	決算額（千円）	事業概要・実績	○＝成果　●＝課題・今後の取組	評価ランク
19	特別支援教育推進事業 ［学校教育課］	6,831	6,311	特別支援教育会議では、幼児部会・小中部会合わせて、177件の審議を行った。 スクールサポート巡回相談については、前期と後期を合わせて64名の相談依頼があり、専門員（小・中学校教員49名が兼職）が分担して巡回相談を行った。 新たに「特別支援教育相談員」を配置し、就学相談に関わる検査の実施、保護者や教職員への説明、スクールサポート巡回相談での助言等を行った。	○ 専門員による丁寧な調査活動により、保護者の理解を得られ、おおむね適正な就学につながる判断を出すことができた。 特別支援教育相談員の配置により、適正就学につながる保護者との相談の充実や子どもへの適切な支援を実施することができた。 ● 専門員への依頼件数が増加している。また、複雑な要因のあるケースへの対応などが増えている。特別支援学級の増加により、特別支援学級担任や特別支援教育コーディネーターへの支援も必須である。資質向上のための研修の充実も求められている。	S
20	中学校心の教室相談員事業 ［学校教育課］	1,633	1,350	中学校区に派遣されている県スクールカウンセラーの業務量が多い中学校6校に対し3名の「心の教室相談員」を配置した。 日常生活の何気ない関わりから、不安や悩みを抱える生徒に対し丁寧な対応を行った。報告された生徒との関わりは延べ2,022件、そのうち深刻な教育相談等は23件であった。	○ 学校の実態に応じたよりきめ細かな相談支援業務を実施することができ、生徒の悩みの解消や自己肯定感の向上につながった。 ● 対応が多岐にわたるため、今後も生徒の悩みを共感的に受け止める相談員の確保が必要である。	A
21	かしわざきこども大学事業 ［学校教育課］	6,882	5,402	キャリア教育コースやこどもの笑顔創造プロジェクトなど全6コースを実施した（地域住民を含む参加人数は9,330名）。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ロボット工作コースの工作教室・交流競技会は中止した。 なお、キャリア教育コース、学校教育活動推進事業は別科目から支出されている。	○ 感染症対策を講じながら、地域団体や大学等と連携し、学校や家庭だけでは体験できない様々な活動の場を提供し、子どもたちの生きる力を育むことができた。 ● 財源であるかしわざき子ども育成基金の残高が、減少している。こども大学の在り方や同様な事業との統合等を検討し、スリムな事業展開を図る必要がある。	A
22	修学旅行のキャンセル料等支援事業 ［学校教育課］	6,551	6,547	新型コロナウイルス感染症拡大防止のために修学旅行を中止又は延期、変更した小学校（4校）及び中学校（8校）に対して、キャンセル料等を補助した。	○ 小学校及び中学校に補助金としてキャンセル料等に係る経費を交付したことにより、保護者の経済的な負担軽減につながった。 ● 今後も社会情勢を注視し、必要な支援を行うことを検討する。	A
23	地域学校協働活動推進事業 ［文化・生涯学習課］ （前事業名：学校支援地域本部事業）	5,689	2,778	全小・中学校に地域コーディネーター（37名）を配置し、従来の地域が学校を支援するという一方向の活動から、学校と地域住民が共に地域の課題を解決する活動や地域の行事に学校が参画して、共に地域づくりに関わる活動に取り組むことで、学校、家庭、地域が一体となって地域ぐるみでの子どもの育成につなげている。 地域コーディネーター・学校担当者を対象とした「地域総ぐるみで子供の成長を支える確かな仕組みづくり」についての講義・演習を実施し、地域コーディネーター12人、協働活動支援員10人、学校担当者24人の計46人が受講した。	○ 令和2（2020）年度に実施できなかった事業も、感染症対策を徹底しながら少しずつ実施するよう努めてきた。地域団体や大学等と連携し、学校や家庭だけでは体験できない様々な活動の場を提供してきた。 今後の子ども大学の事業内容、実施方針について委員から意見を聴く場を設けた。 ● 財源であるかしわざき子ども育成基金の残高減少に伴い、今後のこども大学の在り方や事業内容等のについて検討する必要がある。	A

	事務事業名	予算現額 （千円）	決算額 （千円）	事業概要・実績	○＝成果　●＝課題・今後の取組	評価 ランク
24	**子どもフェスタ運営事業** **［文化・生涯学習課］**	68	54	柏崎市子ども会連合会と協働し、子どもの心身の健康を増進し情操を豊かにすることを目指し、トライウオーク＆こどもフェスタ、ニュースポ・パラスポ＆こどもの遊びの広場2021(福祉課、スポーツ振興課連携)、こどもスポーツフェスタを開催した。なお、開催を予定していた冬のこどもフェスタについては、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止した。 ・トライウオーク＆こどもフェスタ参加者 135人(前年度171人) ・ニュースポ・パラスポ＆こどもの遊びの広場2021参加者 208人(前年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止) ・こどもスポーツフェスタ参加者 208人(前年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止)	○ 新型コロナウイルス感染症の影響下ではあったが多数の参加があり、体験活動や参加者相互の交流を通して、青少年の健全育成に寄与することができた。 ● 引き続き新型コロナウイルス感染症に対応した事業実施を目指し、内容の改善や更新に取り組む。子ども会活動の活性化のために本事業を活用してもらえるよう、地域の子ども会との連携を深める。	A
25	**なぎさ体験塾運営事業** **［文化・生涯学習課］**	225	0	東村山市・東久留米市・柏崎市の共催でシーユース雷音を拠点に、2泊3日の小学5・6年生による交流体験を実施する予定であったが、全国的な新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止した。	○ － ● 日帰りでの開催も検討したが実施に至らなかった。引き続き、新型コロナウイルス感染症対策を考慮した運営とメニューを検討していく必要がある。	－
26	**地域で育む子ども育成事業** **［文化・生涯学習課］**	705	408	各ＰＴＡ団体が主体となって行う子ども育成事業を柏崎市小中学校ＰＴＡ連合会（市Ｐ連）と協力して事業展開したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止した事業もあった。 ・市Ｐ連事業 1事業　（前年度　0事業） ・各ＰＴＡ団体事業 16事業　（前年度　12事業）	○ 各種研修会等の事業を開催することにより、市Ｐ連、地区ＰＴＡ会員の知識を深めるとともに、子ども達の育成にもつながった。 ● 子ども達を取り巻く環境は、日々変化しており、ＰＴＡの知識向上のため、今後も各種研修会等を続けていく必要がある。	A
27	**ジュニアリーダー養成事業** **［文化・生涯学習課］**	(100)	(51)	柏崎市子ども会連合会との協働により、柏崎市内の小・中学生を対象に、子ども会などでリーダーとして活躍できる知識や技能を身に付けることを目的とした研修を実施した。 ・ジュニアリーダー養成研修参加者 29人（前年度28人） ・研修実施回数 7回（前年度7回） ※新型コロナウイルス感染症の影響で1回を中止した。	○ 年齢や学区の異なる児童・生徒が研修に参加することで、互いに協力して活動することを通して、社会性や協調性を育むことができた。また、子どもが自ら考え、主体的に活動することを念頭に研修を進め、リーダーとしての資質を養うことにつながった。 ● 小・中学生が研修で得た知識や技術を子ども会活動に限らず、各地域における行事等において中心的な役割として活躍できる人材の育成を目指して事業を進める。	A

⑶　教育環境を充実させる
ア　良好な教育環境の整備
イ　教育現場の情報化の推進

	事務事業名	予算現額（千円）	決算額（千円）	事業概要・実績	○＝成果　●＝課題・今後の取組	評価ランク
28	環境衛生検査費 ［学校教育課］	1,453	1,442	学校薬剤師による学校環境衛生定期検査及び学校給食衛生管理定期検査を実施した。（全小・中学校、年間1回）	○ 市立小・中学校の環境衛生検査を実施し、健全な教育環境が保たれた。 ● 健全な環境を維持するために検査を継続する必要がある。	A
29	奨学金貸付事業 ［教育総務課］	49,200	38,760	経済的な理由により大学・短期大学・専修学校（専門課程）への就学が困難な学生に学資の貸付けを行った。 【令和3（2021）年度】 ・貸付者総数62人 ・新規貸付者18人、うち大学等在学生（編入生含む。）4人 【令和2（2020）年度】 ・貸付者総数67人 ・新規貸付者11人	○ 新規貸付者18人を含む62人に貸付けをし、教育の機会均等の向上が図られた。また、令和3（2021）年度から他の奨学金制度との併給を可能にし、大学等在学生の申請を認めた。これにより、4人の大学等在学生から申請があり、更に幅広く学生への支援を行うことができた。 ● 学生が更に利用しやすい制度とするために、社会情勢等に合わせた制度の見直しを行っていく。	A
30	学校管理運営費 ［教育総務課］	37,895	32,140	小・中学校を維持・管理する経費の予算の中から、新型コロナウイルス感染症対策として、国の補助金を活用し、衛生管理用品の他に消毒作業員を配置した。また、電子黒板の整備を前倒しで行った。 ・アルコール等の衛生用品（4,723千円） ・消毒作業員手数料（9,597千円） 従事者数：小学校98名＋中学校40名（合計138名） R3.7～R4.3まで作業 ・電子黒板（17,820千円） 小学校34台＋中学校7台（合計41台）	○ 小・中学校の衛生管理用品の充実及び消毒作業を行うことにより、新型コロナウイルス感染症の感染拡大対策に寄与した。また、小・中学校の普通教室と理科室分の電子黒板を整備したことにより、感染拡大対策及び学習環境改善に寄与した。 ● 今後も国の補助金等を活用して、児童生徒の安全及び学習環境を確保する。	A
31	学校用務員委託事業 ［教育総務課］	116,078	116,076	小・中学校用務員業務を民間委託し、全ての学校に用務員を配置している。また、令和3（2021）年7月31日で3年間の長期継続契約が期限を迎えたため、入札を行い、令和3（2021）年8月1日から令和6（2024）年7月31日までの長期継続契約を新たに締結した。	○ 学校用務員業務を適正かつ確実に行い、良好な学校教育環境を維持した。また、令和3（2021）年7月31日の契約満了に伴い、新規契約に係る入札、契約締結を行い、安定的な小・中学校の管理業務の維持・運営を行った。 ● 学校、受託者と連携しながら、用務員の資質の維持・向上を図り、学校教育環境の適切な管理を行っていく。	A
32	通学支援事業 ［教育総務課］	118,310	96,204	・遠距離通学の児童生徒に対して、通学支援（スクールバスの運行や通学定期券の支給）を実施した。登下校のほか、校外学習等の移動手段として利用した。 ・スクールバス校外利用申請の簡素化に向け、運行委託事業者との協議、令和4（2022）年度予算への計上を行った。 【通学距離基準】 ・児童：片道　2.5km ・生徒：片道　夏期4.5km、冬期3.5km 【通学支援を受けた人数】 ・令和3（2021）年度　585人 ・令和2（2020）年度　559人	○ スクールバスの新規リース、運行計画の再編を行うことにより、遠距離通学の児童生徒の負担を軽減した。 また、運行委託事業者と、スクールバス校外利用申請受付業務の移管について協議し、業務を簡素化した。 ● 児童生徒の安全な通学支援を行うために車両を良好な状態に管理し、老朽化した車両を計画的に更新する。また、学校の意見を聞きながら児童生徒が通学しやすい環境を整備する必要がある。	A

	事務事業名	予算現額 （千円）	決算額 （千円）	事業概要・実績	○＝成果　●＝課題・今後の取組	評価 ランク
33	学校施設長寿命化事業 ［教育総務課］	660,700 逓次繰越 112,300	185,506 逓次繰越 112,300	槇原小学校大規模改修・校舎棟増築工事（令和3（2021）・令和4（2022）年継続事業）のⅠ期工事を実施 ・老朽化したプレハブ校舎を解体し、木造2階建ての校舎を増築 ・体育館に多目的トイレを設置。トイレの洋式化（体育館、南棟校舎） 令和4（2022）年度予定工事で、国の令和3（2021）年度補正予算の交付金事業採択を受けたものについて、令和3（2021）年度で前倒し補正し、令和4（2022）年度予算に明許繰越をする。	○ 老朽化部分の大規模改修工事及び施設の長寿命化工事により、利便性及び快適性が向上し、良好な教育環境の整備ができた。 ● 児童・生徒の安全・安心、また、災害時の地域住民の避難所・避難場所としての機能を果たす学校施設とするため、「学校施設等長寿命化計画（個別施設計画）」に基づいた計画的な改修を進めていく必要がある。	A
34	小学校グラウンド補修事業 ［教育総務課］	132,000	6,989	半田小学校の経年劣化したグラウンドを改修するための測量設計を実施した。	○ 改修工事に必要な測量設計を実施し、安全・安心な屋外教育環境の整備のための準備ができた。 ● 経年劣化により、早急な改修を要する施設が増加していることから、児童の安全・安心を確保し、良好かつ快適な教育環境の整備を継続して進めていく必要がある。	A
35	日吉小学校体育館等改築事業 ［教育総務課］	32,247	31,312	平成30（2018）年度からの継続事業として、令和2（2020）年度の設計に基づき、旧体育館・食堂棟の跡地に学習広場及び駐車場を整備、あわせて、校舎裏の敷地内通路を改修し、駐車場への乗り入れ口を整備した。	○ 旧屋内体育館・食堂棟の跡地に、学習広場及び駐車場を整備し、敷地内通路の改修と乗り入れ口を設置したことで、屋外での良好な教育環境の整備ができ、施設利用者の利便性が向上した。 ● 平成30（2018）年度からの継続事業が全て完了した。今後は、引き続き児童の安全・安心を確保し、良好かつ快適な教育環境が維持されるように管理を行う。	A
36	中学校施設整備事業 ［教育総務課］	50,034	48,400	南中学校の経年劣化した屋上防水の改修工事を実施した。	○ 老朽化した施設の改修により、生徒の安全・安心を確保し、良好かつ快適な教育環境の整備ができた。 ● 老朽化により、早急な改修を要する施設が増加していることから、生徒の安全・安心を確保し、良好かつ快適な教育環境の整備を継続して進めていく必要がある。	A
37	東中学校改築事業 ［教育総務課］	1,832,548 逓次繰越 809,672	84,478 逓次繰越 609,555	令和2（2020）年度に行った実施設計に基づき、改築工事（令和3（2021）年・令和4（2022）年継続事業）のⅠ期工事及び工事監理を実施。設計では、既存校舎解体工事設計を実施	○ 築後40年以上が経過し、老朽化した校舎と屋内体育館の改築事業を進め、安全・安心で、かつ、快適で高質の教育環境を整備するとともに、適正規模の学校施設となるよう計画的に改築の準備を進めることができた。 ● 実施設計に基づき、令和4（2022）年度の竣（しゅん）工に向けて改築工事を進めるとともに、令和5（2023）年度に行う予定の既存校舎・体育館解体工事、グラウンド改修工事の設計等を計画的に行っていく必要がある。	A

	事務事業名	予算現額（千円）	決算額（千円）	事業概要・実績	○＝成果　●＝課題・今後の取組	評価ランク
38	給食施設整備事業 ［教育総務課］	31,240 逓次繰越 9,185	21,780 繰越明許 9,185	西部地区共同調理場の老朽化した食器消毒保管庫の入替えとともに、衛生管理基準及び大量調理マニュアルに沿った急速冷却設備（ブラストチラー）の導入を行った。 また、東部地区共同調理場にも、急速冷却設備の導入を行い、学校給食衛生管理基準及び大量調理マニュアルに沿った施設となった。 南部地区共同調理場の配送車入替を予定したが、新型コロナウイルス感染症の影響により、車の確保が難しいことで入札が不調となった。納車時期をに次年度へ改め再入札を実施し、令和4（2022）年度へ予算を繰り越した。	○ 衛生管理基準に沿った整備が行われ、施設環境が改善された。 ● 共同調理場の調理機器が、故障・破損等や老朽化により安全性が損なわれる事が無いように、点検を実施し、老朽化に著しい機器は計画的に更新を図る必要がある。	A
39	給食施設管理経費 ［教育総務課］	35,984	34,184	市内8か所の学校給食調理場に対して施設の保守管理及び環境整備を行い、学校給食衛生管理基準に沿った維持管理ができた。	○ 学校給食の衛生管理基準に沿った施設管理ができた。 ● 現行の衛生基準に則した施設整備を行うために、20年以上経過した施設の統廃合及び受配校の見直しを計画どおりに進める。	A
40	情報機器管理費 ［教育総務課］	206,626	206,626	教育包括アウトソーシング（※）（平成30（2018）年4月1日～令和5（2023）年3月31日）により、教務室、教室等の情報環境の整備及び情報機器の保守管理を効率的に実施した。	○ 教育ＩＣＴ（※）の促進及び校務の効率化が図られた。また、ＧＩＧＡスクール構想の推進に伴い、ＩＣＴ支援室を設置し、授業支援、機器の保守及び年度更新作業を行うことができたことにより、安定した情報教育環境を継続して確保した。 ● 情報教育の更なる促進のため、必要な情報機器等の検討を行う必要がある。	A
41	給食業務運営経費 ［教育総務課］	316,837	313,128	共同調理場の維持管理運営に必要な業務を専門の業者に委託することで、小学校20校、中学校11校及びはまなす特別支援学校に安全安心な学校給食を提供することができた。	○ 児童・生徒に安全安心な給食の提供が滞りなく行われた。 ● 共同調理場の統廃合及び受配校の見直しを進め効率化を図り、経費削減に努める必要がある。	A
42	荒浜小学校校舎棟等改築事業 ［教育総務課］【新規】	35,581	31,825	老朽化した校舎棟等を改築するため、設計事業者を公募型プロポーザルで選定し、改築工事の基本設計を実施した。また、敷地の地質調査及び文部科学省の補助金活用を検討するために必要な現校舎の耐力度調査を実施した。	○ 築後50年以上が経過し、老朽化により劣化した校舎の改築事業を進め、安全・安心で、かつ、快適で高質の教育環境を整備するとともに、適正規模の学校施設となるよう計画的に改築の準備を進めることができた。 ● 基本設計に基づき、令和5（2023）年度のからの改築工事に向けて実施設計等を進めるとともに、既存校舎解体工事やグラウンド改修工事の設計等を計画的に行っていく必要がある。	A
43	校舎戸締り等委託業務経費 ［教育総務課］【新規】	2,527	1,958	教職員の働き方改革及び多忙化解消の一環として、小学校7校、中学校3校をモデル校に選定し、教職員の負担となっていた日直業務を民間に委託するとともに、日直業務員が退校を促すことにより長時間勤務の改善を図った。	○ モデル校以外の学校の退校時間も早まり、教職員の働き方改革及び長時間勤務の改善が図られた。 ● 今後、委託先の日直業務員の継続的な確保が厳しい状況である。	A

２　学びを通じて地域の「たくましさ」をはぐくむ

【第五次総合計画・前期基本計画における施策の方針】
①　誰もが生涯にわたり、生きがいを持ちながら主体的に学び続けられる環境をつくる。
②　いつでも、どこでも学べる機会を創出するとともに、様々な機関・施設・団体と連携しながら、多様な生涯学習ニーズに対応する学習内容を提供する。
③　図書館、博物館など、生涯学習に活用される社会教育環境の充実に取り組む。
④　学びの成果を地域社会における様々な地域活動、教育活動にいかせるよう、多様な主体と連携した生涯学習を推進する。

◆　主な事業

文化・生涯学習課

○　新成人フェスティバル事業

新成人を祝福するとともに、成人としての自覚と社会参加を促すことを目的として、令和3（2021）年5月3日（月・祝）に成人式の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、令和3（2021）年9月19日(日)に延期、令和4（2022）年3月5日(土)に再延期したが実施することはできなかったため、市民を挙げて新成人を祝福するとともに、新成人から郷土への愛着や誇りを感じてもらうことにつながらなかった。

なお、令和4（2022）年9月25日(日)に開催する予定である。

○　マナビィステージ開催事業

令和2（2020）年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となったが、令和3（2021）年度は検温、消毒、観覧席制限、換気等、感染症予防対策を行い、11月20日（土）、21日（日）に市民プラザで開催した。

ステージ発表では20団体（令和元（2019）年度25団体）、作品展示発表では、7団体（令和元（2019）年度9団体）の参加となった。席数を制限したこともあり、観覧者は延べ838人（令和元（2019）年度1,191人）となった。日ごろ公民館（学習プラザ等）での学習の成果を発表することで、活動している団体の目標（励み）にもつなげることができ有効であった。

○　社会教育委員会議運営事業

第三次生涯学習推進計画が令和3（2021）年度で終了するため、次期計画策定のため、令和3（2021）年5月に無作為抽出により、20歳以上の男女2,000人に対し、「生涯学習に関する市民ニーズ調査」を行い、調査結果を社会教育委員会議に報告するとともに、社会教育委員に意見を伺いながら第四次生涯学習推進計画を策定した。また、例年であれば年3回開催のところ、計画策定のため5回開催した。

今後は、第四次生涯学習推進計画の基本目標である「学ぶ喜びを　未来につなげる　ひとづくり・まちづくり」達成のため、社会教育委員会議の中で進行管理を行っていく。

図書館

○　イベント・講座開催

企画展「柏崎の花 -Spring Collection-」を開催した。関係課、市民団体、個人等の協力を得て、花に関する様々な展示品（美術品、生け花、雪割草等）を展示したほか、朗読・演奏会、映画の上映会、マスコミや関係者を招いての内覧会などを実施し、多くの市民に来場してもらうことができた。また、「柏崎市立図書館寄贈資料展」を開催し、郷土に関する器物・軸・屏風等を含む資料や昭和時代の市内小・中学校の航空写真を展示するなど、郷土資料を活用することができた。また、郷土資料デジタルデータの利活用を進めることができた。

読み聞かせボランティアの育成・研修を行い、読書活動を推進することができた。はじめての絵本セミナー「えほんライブ」に17組36名、読み聞かせボランティアスキルアップ講座に15名、絵本の読み聞かせボランティア交流研修会に15名の参加があった。

ブックスタートにより乳児342名に絵本684冊を配付し、子どもが絵本に触れ保護者が読み聞かせを行う環境づくりができた。前年度は感染防止のため検診会場へのスタッフ同席は不可能だったが、職員1名の同席が可能となり、簡単な説明と案内書類の手渡しを開始した。また「えほんのへや」におけるブックスタート絵本の実演を開始した。保護者アンケートでも「大変良い」「良い」が計98%、絵本を「かなり活用している」「活用している」が計96%の評価を得た。

博物館

○　博物館振興事業

他機関等と連携を図りながら、市民共有の財産である収蔵資料等を活用した当市固有の地域資産や文化を発信する企画展等を行い、市民の教育、学術及び文化の発展に寄与することができた。

また、学習指導要領に沿った取組では、毎年度テーマを変えながら「むかしのくらしと道具」展を開催している。令和3（2021）年度は、小学校3年生の学習の場等として10校の利用があり、多くの児童が学習の機会を得ることができ有効であった。なお、感染症対策として、展示解説や体験では少人数にグループ化し巡回型で行う等の取組を行い、学校の授業時間に支障なく実施することができた。

○　プラネタリウム管理運営費

年度を通じて収容制限等を行い、安心して利用できる環境を提供した。定期投影等では子どもから大人まで楽しめる番組を選定し、また、学習投影での内容の充実を図るなどを行い、天体学習の興味や理解を深めてもらうことができた。

また、令和元（2019）年度に新たに企画したイベント投影の「熟睡プラ寝たリウム」と「クリスマスイベント」は、追加投影を行った回もあるなど好評を得ている。なお、令和2（2020）年度に在宅でも楽しめるコンテンツとして始めたオリジナル動画「ウチそら」の制作・公開を継続し、オンラインでの視聴機会も提供することができた。

(1) 学びの機会を充実させる

ア 多様な学習・交流機会の提供≪健康・元気・いきいき戦略≫

イ 社会教育環境の充実

	事務事業名	予算現額（千円）	決算額（千円）	事業概要・実績	○＝成果　●＝課題・今後の取組	評価ランク
44	マナビィステージ運営事業 ［文化・生涯学習課］	450	450	柏崎公民館（市民プラザ）等で生涯学習活動を行っている団体で実行委員会を組織し、感染症対策に留意して発表会を開催した。 ※前年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。 参加団体 　ステージ発表　20団体（前々年度25団体） 　作品展示発表　 7団体（前々年度9団体） 入場者数 　ステージ発表　493人（前々年度731人） 　作品展示発表　345人（前々年度460人）	○ 感染症対策を行った上で実施する方法を実行委員会で検討し、開催することができた。 ● 学習の成果を発表する場及び各種団体の交流の場として、今後も継続して開催する。 また、参加団体が固定化されないよう、新規団体の参加を促していく必要がある。	A
45	新成人フェスティバル事業 ［文化・生涯学習課］	1,219	47	新成人を祝福するとともに、成人としての自覚と社会参加を促すことを目的として、令和3（2021）年5月3日(月・祝)に成人式の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、やむを得ず令和4（2022）年9月25日(日)に延期することとした。	○ － ● 新型コロナウイルス感染症に対する予防策等を講じた開催方法の検討及び運営の工夫に取り組む。	－
46	公民館講座運営事業 ［文化・生涯学習課］	2,661	2,462	社会経験豊富なシニア世代が興味を持って取り組める多種多様なメニューのシニアコース、全年齢を対象とした幅広いジャンルのエイジレスコース、小・中学生の夏休みや冬休みに合わせた創作活動や実験を行う子ども向けコースを設け、講座を開催した。 【シニアコース】 ・令和3（2021）年度（講座数は種類） 　講座　　…開催24講座（延べ63回） 　延べ人数　…813人 ・令和2（2020）年度 　講座　　…開催31講座 　延べ人数　…628人 【エイジレスコース】 ・令和3（2021）年度（講座数は種類） 　講座　　…開催33講座（延べ83回）、 　　中止1講座 　延べ人数　…842人 　託児サービス…5人 ・令和2（2020）年度 　講座　　…開催30講座、中止　10講座 　延べ人数　…683人 　託児サービス…3人 【こども向けコース】 ・令和3（2021）年度（講座数は種類） 　講座　　…開催9講座（延べ15回）、 　　中止2講座 　延べ人数　…親子43組　203人 　託児サービス…1人 ・令和2（2020）年度 　講座　　…開催15講座 　延べ人数　…親子24組　153人 　託児サービス…1人	○ 各年代のニーズに合わせ、交流を通じて生きがいや学ぶ楽しさを見いだす学習機会を提供することができた。シニアコース1講座(資料で巡る！昔の信越線鉄道旅)とこども向けコース2講座(楽しく学ぼう！プログラミング体験、レジンで作る！オリジナルアクセサリー)では、申込多数のためそれぞれ追加講座を開催し、多くの市民が受講することができた。 ● より多くの方々に学習機会を提供するため、引き続き講座内容、周知方法等を工夫し、魅力ある講座にしていく必要がある。また、エイジレスコースでは若年層と男性の受講率を増加させるために、ＳＮＳを活用して効果的な情報発信や新たな講座内容の企画などを検討していくことが必要である。	A

	事務事業名	予算現額（千円）	決算額（千円）	事業概要・実績	○＝成果　●＝課題・今後の取組	評価ランク
47	**社会教育委員会議運営事業** **［文化・生涯学習課］**	730	507	5月に無作為抽出した市民2,000人に対し、「生涯学習に対する市民ニーズ調査」を実施し、取りまとめた内容について社会教育委員会議に報告、その後に第四次生涯学習推進計画策定の審議に係る社会教育委員会議を開催した。 ・委員数　17人（定員17人） ・会議の開催回数　5回 ・第四次生涯学習推進計画の策定審議 ・第三次生涯学習推進計画の進行管理 ・研修会、研究大会参加	○ 第四次生涯学習推進計画策定のため、各委員から意見を伺い、計画に反映をした。また、第三次生涯学習推進計画の進行管理に対する意見等は、事業担当部署と共有し、審議の都度、検証を行った。 あわせて、中越、県の研修会に参加するとともに、他市の情報を収集し、社会教育、生涯学習の知識を高めることにつながった。 ● 第三次及び第四次の生涯学習推進計画の実行性を高めるには、定期的、継続的に本会議で進行管理の審議を行うことが必要である。 また、引き続き各種研修会に参加し、他市の取組状況など情報を収集する必要がある。	A
48	**イベント・講座開催費** **［図書館］**	2,334	1,851	企画展の実施 【柏崎の花 -Spring Collection-】 花に関する絵画・写真などの美術作品、生け花や雪割草、黒船館所蔵美術品など約130点を展示したほか、朗読とチェロ演奏、花に関する絵本のグループワークなどを行い、2,102人の入場があった。 【柏崎市立図書館寄贈資料展】 12月7日～13日に郷土に関する器物・軸・屏風等を含む資料約50点のほか、昭和時代の市内小・中学校の航空写真などを展示し、262人の入場者があった。 イベント・講座 【土曜日は絵本の時間。】 ・10回　参加者延べ82人（前年度8回　74人） 【映画上映会】 ・59回　入場者559人（前年度54回　493人） 【出張おはなし会】 ボランティア10名と職員による幼稚園・保育園等での実施。 ・9回　参加者延べ91人（前年度3回　79人） 【絵本の読み聞かせボランティア交流研修会】 ・9/6、9/17の開催予定が感染拡大により12/21の1回開催となった。 ・参加者　15人（前年度：中止） 第二次柏崎市子ども読書活動推進計画 関係課と連携し施策に取り組み、その進捗状況について図書館協議会に報告した。 【絵本・こどもフェスタ2021】 ・虹いろおはなし会30人（昨年度　97人） ・人形劇「オズの魔法使い」101人（昨年度の実施無し） 【子ども司書養成講座】 　新道小の11人が受講（前年度二田小11人受講） 【読み聞かせボランティア等の育成・研修】 ・はじめての絵本セミナー「えほんライブ」 　参加者… 17組36人（前年度：中止） 【ブックスタート事業】 　職員1名が4か月児集団健診に同席、一部事業再開。希望絵本2冊は郵送。 　対応者… 342人、684冊（前年度459人、918冊） 【ふれあいブックスタート】 　ブックスタートのフォローアップとして開催。 　参加者… 合計5回、15組、31人 【ブックスタートボランティア交流研修会】 　感染症拡大のため中止。	○ 企画展の実施 「柏崎の花」を冬季の閑散期に実施し、多くの来館をいただき企画内容についても好評をいただいた。また、「郷土に関する資料」は、通常公開する機会が少ないが、開館25周年のタイミングで利用者に公開することができた。 イベント・講座 新しい生活様式に留意した感染対策を図り、前年度を上回る事業を実施し、社会教育環境の充実に寄与した。 第二次柏崎市子ども読書活動推進計画 各種事業等の実施についてコロナ過で延期や中止となっていた活動を、感染防止対策を図りながら徐々に再開し、各関係機関・団体との連携により、子どもの読書習慣づくりと読書環境の整備を推進することができた。 ブックスタート 健診会場での職員による対面説明を再開することができた。また、フォローアップ事業として、ふれあいブックスタートを2か月に1回開催できた。 この事業について保護者アンケートを実施、「大変良い」（84%）、「良い」（14%）、絵本の活用の問いには「絵本をかなり活用している」（32.1%）「絵本を活用している」（64.3%）とそれぞれ良い評価を得ることができた。 ● コロナ過において読書活動を推進するため、感染対策を講じながら、いかに事業を展開するか更なる検討が必要である。 ふれあいブックスタート事業を実施し、親子での読み聞かせの大切さや家庭での読書習慣の必要性を発信する必要がある。 ブックスタートボランティアの確保と養成が必要である。	S

	事務事業名	予算現額（千円）	決算額（千円）	事業概要・実績	○＝成果　●＝課題・今後の取組	評価ランク
49	**博物館振興事業** **［博物館］**	1,468	1,057	【新型コロナウイルス感染症の影響と取組】 ・新潟県全域の特別警報発令により、9/3～9/16は臨時休館とした。 ・冬季収蔵資料展の関連行事として、会期中にワークショップ「サンダワラの座布団づくり」を予定していたが、まん延防止等重点措置の適用期間となったため中止とした。 ・冬季収蔵資料展における学校への解説や体験では、少人数グループ編成や使い捨て手袋の着用等、工夫して実施した。 【実績等】 ・春季企画展「Japanー内田宗寛の黒とかたちー」4/24～5/23（入場者5,046人） ・第28回動植物スケッチ・写真展　6/13～6/27（入場者2,465人） ・夏季収蔵美術品展「親子で楽しむ収蔵美術品展」7/24～8/22（入場者4,086人） ・秋季企画展「見る月　行く月」　10/9～11/23（入場者8,538人） ・冬季収蔵資料展「むかしのくらしと道具ー生活を支える“入れモノ”たちー」　12/18～翌3/13（入場者3,990人）　※出前展示「ちょっと昔の道具展」1/15～1/30　於 西山ふるさと館（観覧者数639人） ・各企画展等では、ワークショップ等の関連行事を実施 ・その他、エントランスホールにて各種のミニ展示を実施 延べ開催日数　173日間　延べ入場者数　24,125人 ※令和2（2020）年度 延べ開催日数　203日間　延べ入場者数　23,130人 （エントランスでの実施となった第27回動植物スケッチ・写真展を除く）	○　企画展等では、当館収蔵資料の活用に加え、他機関等の協力を得ながら連携し、多様な学習機会の提供や理解を深める取組とすることができた。 なお、冬季収蔵資料展「むかしのくらしと道具」では、柏崎刈羽地域における小学校3年生の学習の場として10校の利用があり、学校教育活動に寄与することができた。 ●　市民の教育、学術等に寄与する教育施設とするため、博物館資料を適切に収集、保管し、市民ニーズ等に対応した展示や解説等の学習機会を提供していくことが必要である。 また、コロナ禍でも入場者が安心して利用できるよう感染症対策を行いながら、継続していくことが必要である。	A

	事務事業名	予算現額（千円）	決算額（千円）	事業概要・実績	○＝成果　●＝課題・今後の取組	評価ランク
50	**プラネタリウム管理運営費** **［博物館］**	5,377	5,073	【新型コロナウイルス感染症の影響と取組】 ・臨時休館となった9/3～9/16は投影を休止とした。 ・昨年度に引き続き、各回の収容人数を制限するなどの対策を行った。 ・在宅でも楽しめるコンテンツとしてプラネタリウム動画「ウチそら」の制作を継続し、計9本を公開した。 再生回数　9本延べ1,443回　最大476回　平均160回（令和4（2022）年3月27日現在） ※参考　令和2（2020）年度　6本公開　6本延べ2,892回　最大1,466回　平均482回（令和3（2021）年3月31日現在） 【実績等】 ・定期投影では、星空解説と「銀河の渚で」（～9月）、「太陽　私たちの母なる星」（10月～）・「ひかりのせかいへ」（通年）、「ポケットモンスター　オーロラからのメッセージ」（通年）を投影した。 ・キッズプラネタリウム（9回　350人）、夏季イベント投影「クラゲタリウム」（6回　225人）、「熟睡プラ寝たリウム」（4回　147人）、「クリスマスイベント」（4回　141人）、バレンタインイベント（7回　174人）を実施した。 ・小・中学校の学習投影にも対応した。 定期投影　154回 特別投影・イベント投影　75回（団体利用含む。） 学習投影　49回 計278回 入場者　6,907人 ※令和2(2020)年度　269回　5,357人	○　定期投影等では子どもから大人まで楽しめる番組を選定し、天文への興味や理解を深めてもらうことができた。 また、オリジナル企画であるイベント投影では、「熟睡プラ寝たリウム」や「クリスマスイベント」等を引き続き実施したところ、定員を上回ったため追加投影を行った回もあるなど、多くの来場者を得ることができた。 さらに、学習投影では、小学校（4年生13校　19回投影、6年生14校　21回投影）、中学校（3年生6校　9回投影）が理科の天文学習で利用し、学校教育活動に寄与することができた。 新型コロナウイルス感染症の影響もあったが、全体の投影回数や入場者数は前年度を上回った。入場者が安心して利用できる対策や動画配信も含めた各種の取組により、柏崎の星空を解説し、星空を楽しめる機会を提供することができた。 ●　学習投影や柏崎の今夜の星空解説等を通じた天文学習を継続するとともに、新番組を組み込みながら、今後もリニューアルで導入した新型機器を有効に活用する企画を行う必要がある。 また、コロナ禍でも入場者が安心して利用できるよう感染症対策を行いながら、継続していくことが必要である。	A

⑵　家庭・地域の教育力を高め、共助社会を形成する

ア　地域づくりへの学習成果の活用
イ　様々な主体との連携による生涯学習の充実

	事務事業名	予算現額（千円）	決算額（千円）	事業概要・実績	○＝成果　●＝課題・今後の取組	評価ランク
51	市民大学運営事業 ［文化・生涯学習課］	1,067	779	学習者の自己実現や豊かな人生の創造を支援し、その学習成果が地域づくりに活用されることで、ひいては地域社会の活力につながることを目的として、市民大学講座を開催した。地元大学や地域の人材との連携により、幅広い分野をテーマに様々な知識を習得する機会を提供した。 【令和3（2021）年度】 ・講座数　…12講座(延べ32回) ・延べ受講者数…642人 【令和2（2020）年度】 ・講座数　…11講座 ・延べ受講者数…777人 ※新型コロナウイルス感染症の影響により、前期講座（6月～8月）の開催を中止した。	○　前年度から継続して高齢者福祉をテーマとして取り上げることにより、市民が地域の実情や課題を知ることができた。歴史的人物と柏崎地域との関わりについて開催した講座では、地域づくりへの関心を高めることにつながった。 また、自身の知識や経験をもとに市民自らが講師を務める講座も開催し、学習活動の活性化に資することができた。 ●　「学生のための知って得するスポーツ栄養」において、自宅でも受講できるようオンライン講座を開催したが受講者が少なかった。オンライン講座については、テーマと講座情報の発信方法について検討する必要がある。	A

３　スポーツを通じた「たくましさ」をはぐくむ

【第五次総合計画・前期基本計画における施策の方針】
① 市民がそれぞれのライフステージに応じてスポーツに接し、楽しみ、継続することのできる環境づくりに努める。
② 自らスポーツを「する」だけでなく、「観る」、「支える」、「育てる」ことにも着目し、スポーツによる地域づくり、健康づくり、生きがいづくりを目指す。
③ 各種スポーツコンベンション、スポーツ合宿誘致及びホストタウン事業の実施により、交流人口を拡大し、地域の活性化とシティセールスの推進につなげる。
④ スポーツ競技力を総合的に高めるため、これまで以上に各種競技団体との相互連携を図るとともに、優れた指導者の養成と確保により、国内や世界で通用する競技者の育成と強化に取り組む。
⑤ 「水球のまち柏崎」として、東京オリンピック・パラリンピックの開催を視野に入れた取組を推進する。
⑥ 体育施設利用者の安全・安心を確保するとともに、多様化するニーズに応じたスポーツ環境の整備に取り組む。

◆ 主な事業

スポーツ振興課

○ 市民スポーツ大会経費
新型コロナウイルス感染症の影響によりいくつかの行事が中止となったが、感染予防対策を講じながら各種イベントを実施できたことは、これから迎えるウィズコロナ・ポストコロナの局面において、感染症に負けないスポーツ振興の活動を進めていく上での土台づくりができたものと考えている。

○ 陸上競技場整備事業
5年に一度必要となる日本陸上競技連盟の認定（第2種公認）を更新するため、改修工事や必要な備品の調達等を実施した。競技環境の改善、利用者の利便性の向上が図られた。

水球のまち推進室

○ 水球のまち推進事業
新型コロナウイルス感染症の影響で1年遅れとなった東京オリンピックの事前キャンプ受入れ（モンテネグロ、セルビア共和国）を無事に完了することができ、セルビア共和国の2大会連続の金メダル獲得もあって、世界水球界に向けて柏崎をPRすることができた。また、縁あって在大阪セルビア共和国名誉総領事館から中学生向けのセルビアに関するオンライン授業を実施いただけたことは、新たな国際交流の展開として大きな意義があった。

(1) スポーツによる地域づくりや生きがいづくりを進める
ア ライフステージに応じたスポーツの推進≪健康・元気・いきいき戦略≫
イ スポーツによる交流人口の拡大≪魅力あるまち形成戦略≫

	事務事業名	予算現額（千円）	決算額（千円）	事業概要・実績	○＝成果　●＝課題・今後の取組	評価ランク
52	オリンピック・パラリンピック対策事業 ［スポーツ振興課］【新規】	7,000	5,254	コロナ禍であったが、東京2020オリンピック・パラリンピック機運醸成事業を実施した。 実施事業 ・オリンピック報告会（400人） ・聖火リレー（2.8km15区間、観覧者2,350人） ・聖火フェスティバル（パラリンピック） 実施できなかった事業 ・コミュニティライブサイト（パブリックヴューイング） ・オリンピック壮行会	○ コロナ禍であったが、東京2020オリンピック・パラリンピック開催に伴い、各種プログラムを実施し機運醸成につなげた。 ● 様々な機運醸成に取り組んだが、アンブッシュマーケーティング（便乗商法、便乗広告）や肖像権などの制約が非常に多く、専門的な知識が乏しく確認作業に時間を費やされた。	A

	事務事業名	予算現額（千円）	決算額（千円）	事業概要・実績	○＝成果　●＝課題・今後の取組	評価ランク
53	市民スポーツ大会経費 ［スポーツ振興課］	2,799	2,487	新型コロナウイルス感染症の影響により、いくつかの行事が中止となったが、スポーツ推進委員を中心に、スポーツ協会や地区体育協会と連携し、感染症に負けないスポーツ振興の取組を進めた。 主な実施事業 ・スポレクグランプリ（ボッチャ72人） ・スポレクグランプリ（カローリング39人） ・市民スキー、スノーボードスクール　75人 中止となった主な事業 ・スポレクグランプリ（ふらばーるバレー） ・市民ウォーキング大会	○ 感染防止対策を講じながら、ウィズコロナ・ポストコロナを意識したスポーツ振興を進めることができた。また、新潟県が導入した健康アプリを活用し、ウォーキングイベントを開催することができた。 ● 感染症対策を講じながら、より多くの市民が参加し楽しむことのできるイベントや気軽にスポーツに親しむ企画等を検討する必要がある。スポーツ推進委員や地区体育協会など、関係者との更なる連携強化を図る必要がある。	A
54	学校開放経費 ［スポーツ振興課］	258	215	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、令和3（2021）年4月24日から5月9日まで、9月3日から9月16日まで、令和4（2022）年1月11日から3月7日まで、市内全校で利用を中止した。ほかにも、感染を確認した学校のみ利用を中止するなどの措置を採った。 31校の学校体育施設を217団体が延べ8,000回利用し、利用人数は延べ132,698人。対前年比で134％程度の実績となった。	○ 感染防止対策を講じながら学校体育施設を有効活用することで、運動する機会・場を提供し、地域スポーツの振興ができた。 ● 市民が運動に親しむ機会を確保するため、学校体育施設の積極的活用を進める必要があり、引き続き感染症予防対策の徹底を図るとともに、コロナ禍にふさわしい手続・利用方法等の検討、整理が必要である。	A
55	スポーツ推進委員費 ［スポーツ振興課］	4,284	3,928	新型コロナウイルス感染症の影響で活動が難しい状況であったが、６７名のスポーツ推進委員は地区体育協会と連携し各種行事やイベントを実施するなど、積極的に活動を継続した。また、障がい者、外国人がスポーツと触れ合う機会を提供する取組を継続して実施した。 主な派遣事業 ・米山コミセン（ボッチャ） ・かしわハンズ（ボッチャ） ・総合高校（キンボール） ・はまなす特別支援学校（ボッチャ） ・ニュースポーツ・パラスポーツ体験フェア	○ コロナ禍ではあったが、様々な工夫をしながら感染症防止対策を講じた上で、地域の方々からスポーツを楽しんでもらい、交流する機会を提供することができた。また、ダイバーシティの推進にも寄与した。 ● 地域のスポーツ振興を支える上で、感染症対策を含めウィズコロナ・ポストコロナにふさわしいスキルの向上が望まれる。また、少子高齢化・過疎化の進行等に伴い、その成り手の確保が課題となっている。	A
56	市町村生涯スポーツ振興事業 ［スポーツ振興課］	1,103	553	市内中学校運動部活動に専門指導者（スポーツエキスパート）を派遣する事業で、その指導報酬やスポーツ安全保険料を市費で負担した。1回当たり報酬3,000円、年間30回を上限として12人分を予算措置し、その結果4校に6人の指導員を派遣した。	○ 中学生に対して、競技の説明、練習方法等を的確かつ丁寧に指導する機会を設けた。専門的な指導ができない教職員の負担を軽減できた。 ● 部活動指導員事業（令和3（2021）年度9人）と専門指導者（スポーツエキスパート）派遣事業制度のバランスを取りながら、部活動指導員事業の促進を図っていく必要がある。また、中学校部活動の地域移行について、関係各方面と連携しながら対応を進める必要がある。	A
57	スポーツ事業支援経費 ［スポーツ振興課］	24,125	21,446	（一財）柏崎市スポーツ協会、地区体育協会に補助金を交付し、市民スポーツの普及・振興を図ったが、新型コロナウイルス感染症の影響で、実施できなかった事業分については、返戻等の減額措置を採った。 中止となった主な事業 ・北陸バスケットボール大会 ・中部日本卓球選手権大会 ・東村山市ほか交流事業 ・小学生水球交流会	○ コロナ禍ではあったが、関係団体と連携し感染防止対策を講じた上で事業を実施した。厳しい状況ではあったが、全中の水泳競技では、女子平泳ぎ200ｍで優勝、同100ｍで準優勝、女子400ｍメドレーリレーで準優勝と、好成績を残した。競技スポーツの振興や地域における生涯スポーツ振興、健康・体力づくりの推進に結びつけることができた。 ● ウィズコロナ・ポストコロナを見据えたスポーツ振興について関係団体と連携しながら進めていく必要がある。また、中学校部活動の地域移行を円滑に進めていくため、スポーツ協会が指導者の確保・育成を進めており、更に広範な協力体制を構築する必要がある。	A

⑵　全国や世界に通用する競技者を育てる
ア　競技団体との連携の強化と指導者の育成
イ　競技力の向上に向けた取組の推進
ウ　施設の整備と改修

	事務事業名	予算現額（千円）	決算額（千円）	事業概要・実績	○＝成果　●＝課題・今後の取組	評価ランク
58	選手強化事業 ［スポーツ振興課］	8,605	8,453	県の強化指定を受けている3競技（水球・陸上・ハンドボール）団体に対し、地域ジュニア競技スポーツクラブ育成事業補助金を交付し、小・中・高生の選手強化を図った。また、選手派遣費補助金では、小・中体連主催大会への参加費用を支援した。 水　　球　3,000,000　円 ハンドボール　1,000,000　円 陸　　上　1,000,000　円	○ 新潟県の強化指定を受けている3競技（水球・陸上・ハンドボール）への支援を継続し、選手強化に努めた。また、選手派遣費補助金は、令和4（2022）年度から学校教育課所管の補助金と統合し、事務手続の省力化とより使いやすい制度とした。 ● 県の強化指定を受けている3競技の活動支援、選手強化を継続し、ジュニア世代の競技力の維持・向上を図る必要がある。	A
59	体育施設備品購入経費 ［スポーツ振興課］	2,505	2,505	陸上競技場の2種公認継続に必要となる備品類、水球タイマー用バッテリー、白竜公園テニスコート用支柱、芝刈り機を購入した。	○ 体育施設における備品の購入を行い、各施設利用者の利便性の向上につながった。 ● 用具・備品を安全に使用できるよう管理を行いながら、計画的な補充・入替えを行うため、適時適切に物品購入を行う必要がある。	A
60	国際大会等出場奨励事業 ［スポーツ振興課］	1,200	500	東京オリンピック等の国際大会に出場する選手に激励金を贈り、スポーツ振興を図る。	○ 東京オリンピック出場の5選手（水球4人、セーリング1人）に激励金を贈った。 ● 競技スポーツの振興とスポーツ活動を奨励するため、引き続き事業を継続する必要がある。	A
61	スポーツ合宿誘致事業 ［スポーツ振興課］	250	250	柏崎市スポーツ合宿誘致推進連絡協議会に負担金を支出し、誘致活動を行う。新型コロナウイルス感染症の影響もあったが、積極的に新たな手法による誘致活動を行った。	○ コロナ禍、従来のような旅行代理店への訪問活動は実施できなかったが、新たな試みとして明治大学の「明大スポーツ新聞」に合宿誘致のための広告掲載を実施した。 ● ウィズコロナ・ポストコロナを見据えた合宿、スポーツ施設の稼働率が悪い平日の時間帯における利活用、スポーツ合宿のターゲットの拡大（通信制大学や競技スポーツ以外の障がい・生涯スポーツ）を検討する必要がある。	A
62	白竜公園テニスコート整備事業 ［スポーツ振興課］	61,000	52,067	クラブハウス及び倉庫棟の改築工事（庇を大きくするなど使い勝手を考慮して）を実施した。	○ 老朽化したクラブハウスを改築し、利用者の利便性が向上した。 ● 引き続き、安全・快適な施設を利用者に提供するため、適切な維持管理を行う必要がある。	A

	事務事業名	予算現額（千円）	決算額（千円）	事業概要・実績	○＝成果　●＝課題・今後の取組	評価ランク
63	**県立柏崎アクアパーク整備事業** **［スポーツ振興課］**	6,341	5,552	1階女子トイレ2か所並びに2階の男子トイレ1か所及び女子トイレ1か所の洋式化を進めた（令和3(2021)年度の改修工事により、同施設の様式化は完了）。	○ トイレ設備の更新により、利用者の利便性が向上した。 ● 引き続き、安全・快適な施設を利用者に提供するため、適切な維持管理を行う必要がある。	A
64	**陸上競技場整備事業** **［スポーツ振興課］【新規】**	121,051	121,050	5年に一度必要となる日本陸上競技連盟の認定（第2種公認）を更新するために必要な改修工事等を実施した。	○ 予定どおり改修工事を実施し、無事に第2種公認を更新することができた。 ● 引き続き、安全・快適な施設を利用者に提供するため、適切な維持管理を行う必要がある。	A
65	**水球のまち柏崎推進事業** **［水球のまち推進室］**	10,893	8,474	新型コロナウィルス感染症の影響で1年遅れの開催となった東京オリンピックだったが、モンテネグロ、セルビア共和国の事前キャンプを無事に実施することができた。 また、水球の可視化を促進する取組として、水球マンホールの増設（2か所増やし計12か所）、ワクチン接種会場での水球パネル展示、イオンモール新潟南での水球写真展、新一年生への水球ランドセルカバー配布（4回目）などを実施した。 8/7柏崎港で海で水球in柏崎開催し、合計約100人の来場者が訪れた。	○ リオオリンピックに続き東京2020オリンピックでも4名のオリンピアンを輩出することができた。コロナ禍でのオリンピック事前キャンプを成功させ（両チームとも決勝トーナメント進出、セルビア共和国は優勝）、信頼関係を深めることができた。コロナ禍で実施できなかった事業もあったが、在大阪セルビア共和国名誉総領事館との連携で、中学生向けのセルビアに関するオンライン授業（北条中、松浜中）を実施するなど新たな芽出しを進めることができた。 ● 水球の世界的な強豪国であるセルビア共和国、モンテネグロ両国やアジア圏の水球チームとのつながりを更に強め、「水球のまち柏崎」の世界的な知名度の向上を図る。また、今後はアジア圏に重点を置き、水球を通じた国際交流の裾野を一般市民（特に児童、生徒）に広げ、市民の国際感覚の向上を目指す。	A

４　歴史や文化の息づく「柏崎らしさ」をつくる

【第五次総合計画・前期基本計画における施策の方針】

① 古くから伝承されてきた伝統芸能や年中行事、地域産業の発展に尽力された先人の営みや偉業などによる固有の歴史や文化など、魅力ある資源に触れる機会を充実することで、まちへの誇りと愛着を醸成し、市民自らが主体となって将来にわたり、確実に継承できる環境づくりを進める。
② 歴史・文化資源の保存と活用のほか、景観法に基づく景観行政団体として、魅力ある街並み景観を形成し、優れた歴史的・文化的景観の保全・活用に取り組む。
③ 民間が持つ創造力と知見を活用しながら、市民自らが主体的に取り組む文化・芸術活動の推進を図り、文化芸術の創造性をいかした魅力あるまちづくりに取り組む。
④ 教育機関や文化芸術団体の合宿、国内外のアーティストによる指導会を誘致するなど、多様な文化交流を推進する。
⑤ 子どもや若者の創造的な才能を最大限伸ばせるよう、文化創造の機会を充実する。

◆ 主な事業

文化･生涯学習課

○ 文化会館管理運営費

新型コロナウイルス感染症対策を十分に行った上で、9件の鑑賞事業、2件の普及育成事業、4件の参加型事業、2件の賑い創出事業及び6件の市民文化活動支援を実施し、「ウィズコロナ」を視野にいれた管理運営ができた。年間利用者数　84,120人（前年度比 10,078人増）

○ 市美術展覧会費

市民の日頃の創作活動の成果を発表する機会として、市美術展覧会を10月2日（土）から10月10日（日）までソフィアセンターで開催した。
また、10月12日（火）から11月30日（火）まで入賞作品をウェブ展示し、柏崎市域における文化の振興につながった。
展覧会は、出品者数218人（前年度比 17人増）、作品展示数275点（前年度比 25点増）、入場者数延べ2,700人（前々年度来場者数 3,270人）ウェブ展示は、作品展示数78点、アクセス数510回

○ 文化振興支援事業

「野外おんがく堂」開催により、音楽活動の発表の場の提供と賑わいの創出につなげることができた（入場者1,401人　出演14団体）。
文化会館アルフォーレ、柏崎芸術協会、柏崎音楽協会及び市の4団体で「古典を活かした柏崎地域活性化事業実行委員会」を組織し、「柏崎古典フェスティバル」3事業を実施し、民間が持つ創造力と知見を活用しながら、良質な古典の鑑賞機会や文化芸術に親しむ機会を提供することができた。
舞踊劇「綾子舞物語」　入場者総数1,948人、アルフォーレ特選寄席　入場者290人、日本の伝統芸能津軽三味線の世界　入場者407人
※令和2（2020）年度実績　綾子舞アルフォーレ公演　中止、舞踊劇「綾子舞物語」　延期、アルフォーレ特選寄席　入場者290人、箏と尺八の響き　入場者156人

博物館

○ 柏崎市内遺跡発掘調査事業

県営ほ場整備事業、市道改良工事、民間開発等に伴い、事前の試掘・確認調査などを行った（試掘・確認調査6件、工事立会22件）。また、令和2（2020）年度に実施した試掘・確認調査などの報告書1冊を刊行し、埋蔵文化財保護をすることができた。

○ 県道関連遺跡調査事業

一般県道黒部柏崎線道路改築工事に伴い、大字山本・長崎地内の西岩野遺跡の本発掘調査を実施した。計画どおり約1,000㎡の調査を実施し、県道事業に支障を及ぼすことなく埋蔵文化財保護をすることができた。

○ 綾子舞後継者育成事業

人口減少により伝統芸能の後継者不足が全国的な問題となっている中、伝承者養成講座と伝承学習を2本柱に後継者育成を継続している。その中で、伝承学習においては、新道小学校及び南中学校の児童・生徒を対象とした課外クラブ等とすることで参加者の確保に努め、令和3（2021）年度は、60名の参加を得ることができた。

⑴　歴史・文化を保全・活用し、継承する

ア　伝統芸能の継承
イ　歴史・文化資産の保存と活用
ウ　産業文化や生活文化の保存と活用
エ　景観まちづくりの推進

	事務事業名	予算現額（千円）	決算額（千円）	事業概要・実績	○＝成果　●＝課題・今後の取組	評価ランク
66	柏崎市内遺跡発掘調査事業 ［博物館］	11,101	8,842	県営ほ場整備事業、市道改良工事、民間開発等に伴い、事前の試掘・確認調査などを行った（試掘・確認調査6件、工事立会22件）。また、令和2（2020）年度に実施した試掘・確認調査などの報告書1冊（68ページ、300冊）を刊行した。なお、令和4（2022）年5月頃に関係機関（市立図書館、国会図書館、各県市町村など約290箇所）に配布予定。	○ 試掘・確認調査の実施及び報告書を刊行して、埋蔵文化財保護をすることができた。 ● 県営ほ場整備事業対応のための調査経費が増加している。また、年度当初に予定していた調査のほかにも緊急な対応を求められる場合がある。さらに、開発事業の変更によって、調査の内容も異なってくることがあるため、本事業の推進にはその都度計画の見直しが必要となっている。	A
67	都市整備関連遺跡調査事業 ［博物館］	186	139	平成4（1992）年に本発掘調査を行った大字南条地内の馬場・天神腰遺跡の発掘調査報告書の原稿（約380ページ）を作成した。	○ 馬場・天神腰遺跡の発掘調査報告書を刊行する準備が完了した。 ● 今後も市道改良工事に伴う発掘調査報告書を計画的に刊行し、調査成果を市民ニーズに応じて活用し、埋蔵文化財の理解を深めていくことが必要である。	A
68	軽井川南遺跡群調査事業 ［博物館］	1,558	1,346	柏崎フロンティアパーク事業に伴う発掘調査の整理作業を、平成19（2007）年度から継続して実施している。小冊子1冊（16ページ、5,000部）を刊行した。なお、令和4（2022）年5月頃に市内の全中学校生徒、全小学校6年生及び関係機関（市立図書館、国会図書館、各県市町村など）に約3,200部を配布予定。発掘調査が終了し保管不要となった、約70ｔの出土遺物を廃棄処分した。	○ 柏崎フロンティアパーク事業に伴う調査事業が令和3（2021）年度で完了し、埋蔵文化財保護をすることができた。 ● 調査成果を市民に広く公開し、埋蔵文化財の理解を深めていくことが必要である。令和5（2023）年度に博物館振興事業で軽井川南遺跡群の企画展を実施する。	A
69	県道関連遺跡調査事業 ［博物館］	84,451	61,960	一般県道黒部柏崎線道路改築工事に伴い、大字山本・長崎地内の西岩野遺跡において約1,000㎡を対象に記録保存のための本発掘調査を実施した。	○ 年次計画範囲の本発掘調査を確実に実施し、県道事業に支障を及ぼすことなく埋蔵文化財保護をすることができた。 ● 発掘調査は令和4（2022）年度まで継続して実施する予定であり、計画的に遂行するとともに、調査成果を市民へ公開する必要がある。	A
70	綾子舞後継者育成事業 ［博物館］	1,649	1,270	「綾子舞伝承学習」を、伝承地を校区とする南中学校と新道小学校を対象に実施した。 期間　5/14～11/2、延べ8回開催（9/2中止） 参加児童生徒数　60人（令和2（2020）年度60人） そして、「綾子舞伝承者養成講座」を2つの座元（下野、高原田）において実施した。 期間　5/18～11/11、延べ35回開催（8/31中止） 延べ参加者数　824人（令和2（2020）年度673人） 中止は、新潟県全域の特別警報発令によるもの。	○ 感染症対策を行いながら、郷土の伝統芸能を継承するための後継者を育成することができた。 ● 人口減少などの影響により、新道小学校及び南中学校の児童・生徒を対象にした綾子舞伝承学習への参加者や指導者の継続的な確保が課題である。 コロナ禍でも、感染症対策を行いながら、後継者育成を途絶えさせることなく確実に継続していくことが必要である。	A

⑵　市民の主体的な文化活動を支援する
ア　市民の文化活動への支援
イ　多様な文化交流の推進

	事務事業名	予算現額（千円）	決算額（千円）	事業概要・実績	○＝成果　●＝課題・今後の取組	評価ランク
71	文化会館管理運営費 ［文化・生涯学習課］	146,025	146,008	文化会館アルフォーレの管理に関する基本協定に基づく業務（利用の許可に関する業務、施設設置目的に掲げる事業の企画及び実施に関する業務、施設の維持管理に関する業務ほか）を指定管理者が適切に行った。 ・年間利用者数　84,120人（令和2（2020）年度74,042人） ・アルフォーレ自主事業　来場者満足度99％	○ 新型コロナウイルス感染症対策を十分に行った上で、9件の鑑賞事業、2件の普及育成事業、4件の参加型事業、2件の賑い創出事業及び6件の市民文化活動支援を実施し、「ウィズコロナ」を視野にいれた管理運営ができた。 ● 「アフターコロナ」を見据えた文化活動支援や、市民がより能動的に施設を利用できるよう環境の整備を行う必要がある。	A
72	産業文化会館管理運営費 ［文化・生涯学習課］	129,885	129,472	産業文化会館の管理に関する基本協定に基づく業務（利用の許可に関する業務、施設設置目的に掲げる事業の企画及び実施に関する業務、施設の維持管理に関する業務ほか）を指定管理者が適切に行った。 ・年間利用者数　36,169人（令和2（2020）年度27,793人）	○ 大規模改修のため、約1か月間休館していたが、新型コロナウイルス感染症対策を十分に行いつつ、各種カルチャー教室、演劇フェスティバルを実施したことで昨年を上回る利用者数となった。また、かしわざきスーパーＧＯＴＯイートチケット取扱窓口業務を行うことで、市の経済対策に寄与した。 ● 「アフターコロナ」を見据えた事業展開ができるよう運営の見直しを行い、文化会館アルフォーレ等の類似施設との特色の違いを明確にする必要がある。	A
73	市美術展覧会費 ［文化・生涯学習課］	2,008	1,799	・市民の日頃の創作活動の成果を発表する機会として、市美術展覧会を10月2日（土）から10月10日（日）までソフィアセンターで開催した。 出品者数　218人（前年度 201人） 作品展示数　275点（前年度 250点） 入場者数　延べ2,700人（前々年度 3,270人） ・10月12日（火）から11月30日（火）まで入賞作品をウェブ展示した。 作品展示数　78点 アクセス数　510回	○ ウェブで開催した前年度と異なり、実際に展示する形式で開催し、出品者をはじめ来場者から好評を得た。あわせて、入賞作品をウェブ上で掲載し、遠方に住む方や入院中の方等、会場に足を運べない方の利便性が向上した。 ● 日本画部門及び彫刻・工芸部門における製作者の高齢化が進み、今後市展への出品数の先細りが見込まれることから関心をもたれる取組を行う必要がある。また、全体的に出品数が減少していることから、中高生等の若年層の芸術への関心を高める必要がある。	A
74	文化振興支援事業 ［文化・生涯学習課］	7,203	6,101	文化会館アルフォーレとの共催でアルフォーレ劇場広場を会場とした野外おんがく堂を開催した。 ・入場者1,401人　出演14団体 文化会館アルフォーレ、柏崎芸術協会、柏崎音楽協会及び市の4団体で「古典を活かした柏崎地域活性化事業実行委員会」を組織し、「柏崎古典フェスティバル」3事業を実施した。 ・舞踊劇「綾子舞物語」　入場者総数1,948人 ・アルフォーレ特選寄席　入場者316人 ・日本の伝統芸能津軽三味線の世界　入場者407人 ※令和2（2020）年度実績 ・綾子舞アルフォーレ公演　中止 ・舞踊劇「綾子舞物語」　延期 ・アルフォーレ特選寄席　入場者290人 ・箏と尺八の響き　入場者156人	○ 課内の企画会議より生まれた音楽イベント「野外おんがく堂」を新たに開催し、音楽活動の発表の場の提供と賑わいの創出につなげることができた。 また、「柏崎古典フェスティバル」を開催し、民間が持つ創造力と知見を活用しながら、良質な古典の鑑賞機会や文化芸術に親しむ機会を提供することができた。 なかでも、開催までに2年を要した舞踏劇「綾子舞物語」は、小中学生演劇鑑賞会にも活用され、市内の全小学5年生及び全中学1年生が鑑賞し、綾子舞の歴史にふれるよい機会となった。 ● 「ウィズコロナ」を基本としながら、市民一人ひとりが文化芸術に親しむことのできる魅力あるまちづくりを目指す必要がある。今後も、文化交流の発展と市民の関心や理解が深まる文化芸術活動に対する支援に取り組みたい。	S

５　その他教育関係事務事業

	事務事業名	予算現額（千円）	決算額（千円）	事業概要・実績	○＝成果　●＝課題・今後の取組	評価ランク
75	人権・同和教育事業 ［文化・生涯学習課］	10	3	市民プラザにおいて、12月、1月の２か月間、人権啓発のパネル展を実施し、人権に関する啓発を行った（人権週間周知、人権について、同和問題について、インターネットによる人権侵害について、新型コロナウイルス感染症に関する不当な差別、偏見をなくしましょう、シトラスリボンプロジェクトについてを掲示。また、シトラスリボンの作り方のチラシ(70枚）及び西中通コミセン、交通安全協会作成のシトラスリボン（146個）を配布した。）。 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、全国人権・同和教育研究大会は書面で、部落解放新潟県研究集会はオンラインによる開催となった。また、いのち・愛・人権展は中止となった。各種研修会もオンラインによる開催となったが、他市町村の取組状況や情報を収集するとともに、人権に対する知識を高めることができた。	○ 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、各種研修会等は、書面やオンラインによる開催となったが、他市町村の取組状況の収集や人権に対する知識を高めることができた。 市民プラザにおいて、12月の人権週間にあわせ、パネル展を開始し、啓発活動を行った。例年は12月の1か月間の展示だったが、令和3（2021）年度は、市内でも新型コロナウイルスの感染等があり、1月まで2か月間実施した。 ● 新型コロナウイルス感染症の状況を見極めながら、今後も各種研修会へ参加する。 同和問題をはじめ、インターネットによる人権や新型コロナウイルス感染症など啓発活動を継続していく必要がある。 市民向けの講座の実施について、人権啓発・男女共同参画室、学校教育課と協議をしながら進める必要がある。	A

○令和3（2021）年度　掲載がない事業

事務事業名	不掲載の理由
食育推進事業 ［教育総務課］ ［学校教育課］	7　学校教育活動推進事業へ統合したため。
小学校社会科副読本改訂編集事業 ［学校教育課］	令和2（2020）年度で事業が完結したため。

事務事業名	不掲載の理由
青少年健全育成事業 ［青少年育成センター］	令和2（2020）年度をもって、青少年育成センターが廃止され、そのことに伴い青少年育成委員会が解散したことによる。 なお、事業の一部は青少年健全育成市民会議、学校教育課及び子どもの発達支援課へ移管。
学校再開に伴う感染症対策・学習補償等に係る支援事業［教育総務課］	30　学校管理運営費に含むため。
小学校施設整備事業 ［教育総務課］	令和3（2021）年度は小学校において該当する事業がなかったため。
ＧＩＧＡスクール整備事業 ［教育総務課］	教務室、教室等の情報環境については、40　情報機器管理費で整備を行ったため。
ＧＩＧＡスクール整備事業 ［教育総務課］ 令和元年度補正予算（繰越分）	教務室、教室等の情報環境については、40　情報機器管理費で整備を行ったため。
未報告資料整理事業 ［博物館］	令和2（2020）年度で事業が完結したため。

－－－ 用　語　解　説 －－－

デジタル教科書	デジタル機器や情報端末向けの教材のうち、既存の教科書の内容を閲覧するためのソフトウェア。閲覧のほか、編集、移動、追加、削除などの基本機能を備えている。
ＧＩＧＡスクール構想	1人1台端末と通信ネットワークを一体的に整備することで、これまでの教育とＩＣＴのベストミックスを図り、子供たちへ学習活動（一斉学習、個別学習、協働学習）の一層の充実させるための国の構想。ＧＩＧＡとは、Global and Innovation Gateway for Allの略
ＩＣＴ	インフォメーション・アンド・コミュニケーション・テクノロジーの略。情報通信技術。従来、用いられてきた「ＩＴ」とほぼ同様の意味で用いられるもので、国際的にはＩＣＴの方が定着している。
包括アウトソーシング	組織内部で行っていた業務を、全面的に外部事業者へ委託すること。 当市の教育包括アウトソーシングにおいては、学校等で使用するシステム及び情報機器の維持管理を外部事業者へ委託している。

〔参考〕

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律について

（平成１９年７月３１日１９文科初第５３５号事務次官通知）

※現行法の第２６条

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第２７条　教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第１項により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第３項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

２　教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価部分抜粋

第１　改正法の概要

１　教育委員会の責任体制の明確化

⑶　教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないこととした。点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとしたこと。（法第２７条）

第２　留意事項

１　教育委員会の責任体制の明確化

⑶　教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

①　今回の改正は、教育委員会がその権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し、公表することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たしていく趣旨から行うものであること。

②　現在、すでに各教育委員会において、教育に関する事務の管理及び執行の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を議会に報告するなどの取組を行っている場合には、その手法を活用しつつ、適正に対応すること。

③　点検及び評価を行う際、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることについては、点検及び評価の客観性を確保するためのものであることを踏まえ、例えば、点検及び評価の方法や結果について学識経験者から意見を聴取する機会を設けるなど、各教育委員会の判断で適切に対応すること。